夕刊
新京日日新聞
定價 一部 金三錢 一ヶ月 金八十錢 郵稅 一ヶ月 金十五錢
新京永樂町四丁目一番地 發行所 新京日日新聞社 電話〇〇三三・二二五番
發行人 十河榮忠 編輯人 松本男 印刷人 谷啓二郎

滿洲國財政部 噸稅法の起草を急ぐ 噸當り六十二錢課稅

滿洲國財政部に於いて目下噸稅法を起草中であるが、同法の施行により現行の噸當り四メーズ（一メーズは〇、四海關兩）は噸當幣六十二錢四厘と正式に改訂される筈である

ブラジル移民 廿五年祝賀會

（東京十六日發國通）南米ブラジルへの移民は明治四十一年四月廿七日神戸出帆の笠戸丸で第一回移民六百一名が渡航してより今年で丁度廿五年になるので、來る六月十八日笠戸丸のサントス着の日を期して、駐伯日本總領事館主催の下にサンパロで盛大なる記念祝賀會を開く事になつた。當日は在留日本人の他ブラジル聯邦政府要人を初めブラジル朝野の關係者が多數出席し、日本人移民功勞者及び伯國人にして日本人移民入國に斡旋した關係者の表彰を行ふ事となつた

モーニングポスト記者 クライヴ子縱橫談

佛將ヂエフレーと闘ひ印度を完全に英國植民地としたクライヴ卿を祖父に持つ子爵クライヴ氏はモーニング・ポスト紙の特派員として極東特に新興滿洲國觀察に沒頭してゐるが、ヤマト・ホテルに氏を訪へば、六尺豐かの長身の子は貴公子然たる態度で語る

東洋は一九三一年に始めて祖父の故地印度に遊んだ丈けで、滿洲に對して豫備知識がないので東京で出來るだけ準備して來た、新國家滿洲國は治安財政凡百の方面が素晴らしく進展し混沌極まりない支那本土に對比して其の相違に驚いた、

熱河方面も觀察し、夏宮を觀たが夏草や兵者共が夢の跡で、鹿群が逍遙してゐるのも哀れを催した承德では英人宣敎師に寄泊したが彼等は等しく日本軍を賞讚してゐた、湯玉麟の暴政の憂もなく今や熱河住民は其業にいそしんでゐる

萬里の長城は飛行機から見下したが雲に遮ぎられ、東洋の神秘長城を見得ず殘念だつた、滿洲國は國家の三要素、主權、人民、國土を完備する以上列國の承認あるべきだが歐米人はたゞ「激變」を好まないため、不承認で今日に至つてゐるのだ、確然たる事實の前には列强のこの態度を懸念する必要はない、ミルトンの失樂園の墮落天使達を想はせる支那軍閥は滿洲から全く其姿を消し、今や樂園と化し行きつゝあるを觀て世界の何處にもこれより素晴らしい平和事業は見出し得ない

目下日英間の問題は日印通商條約廢棄だがこは松平大使がロンドンで盛に折衝してゐるし、三十有餘年の日英貿易關係と日英同盟の舊誼を想ふ時、英國は必ず善處すると思ふ、いづれせよ世界經濟會議を楔機として好轉すると考へる、英國が一八四二年の阿片戰爭以來執つた對支外交を顧る時日本の現在を批難する資格はない、滿洲は日本の勢力範圍として英國の植民政策の轍を踏ませ度くない蒙古が英國の支援で獨立したとか叉苗族が露國の南下政策の援助で獨立を聲明したとか傳へられるが、斯うして老大國は整理されてこそ混亂より救はれ得るだらう

今朝執政に面會したが執政は信念の强い人だと思つた大膽に私見を述べたが實に包容力が强くこのやうな元首を滿洲國が戴き得るは幸……だ云々

尙ほ氏は近くハルビンに赴く筈

協定成立は可能 豫備商議中のハル長官語る

（ワシントン十六日發國通）米國國務長官ハル氏は目下ワシントンにあるペルー、スペイン、キューバ、ポーランド等の各國大公使と連日國際經濟會議の豫備商議を行ひつゝあるがこれに關しハル長官は十五日左の如く語つた

「先般來各國との豫備商議の結果から見て來るべき國際經濟會議に於て通貨安定並びに通商障害引下げに關し何等かの協定に達し得る可能性は多分にある」

新京電燈廠 引繼資産査定 七十萬圓と正式決定 期待される同廠今後の活躍

新京電燈廠引繼資產評價に關しては、中銀、市公署間に於て電燈廠接收以來約一年間に亘り折衝中であつたが、愈々兩者の歩み寄りの結果、電燈廠の引繼資產及營業權を國幣七十萬圓と査定する事に決定十五ケ年々賦を以て元利を償還する事となり、十六日正式に契約書を交換した、利率は年六分五厘第一回分として近く四萬七千圓を支拂ふる事となつた、尙資產査定に就いては、最初中銀は同廠資產評價を吉大洋九十二萬圓、營業權を併せ百五十萬圓と主張、之に對し市公署は資產九十萬圓を以て引繼を決定せんとして讓らず、今日に至つたもので

同問題の解決に依り、同廠の活躍が期待され併せて滿電、電燈廠間の合併問題も有利に展開するものと見られてゐる

中川臺灣總督 上京

（基隆十六日發國通）中川臺灣總督は明年度豫算打合せのため廿三日入京の豫定である

日銀週報

（東京十六日發國通）日銀週報左の如し

發行兌換券 一、〇一七、七三五
正貨準備 四二五、〇六八
保證內譯公債 三三三、四八[illegible]
政府證券 一三、〇〇〇
證券 五三、〇〇〇
手形 二〇四、一八五

何の停戰申込說で 株式市場昂騰

（東京十六日發國通）何應欽の停戰申込說で對支關係樂觀され、短期新東は早朝八十三圓臺より午後に入つて八十四圓八十錢と奔騰九圓六十錢の高値を見せ、大引は八圓九十錢高、鐘紡は二百二十九圓迄に上つた

陸大生一行 公主嶺へ

南嶺、寬城子の戰蹟觀察、現地戰術演習を行つた陸大生六十名は今井少將引率の下に十六日午後四時三十分發列車にて小磯參謀長、多田少將、高山署長等多數見送裡に公主嶺に向つた、尙御一行の久邇公爵には十七日午前九時發にて新京御出發の後陸大生と奉天で御一緒になられる筈である

熱河經濟事情（三） 鈴木穆氏述

關東軍顧問

面積

熱河省の面積に就ては測定したものかなく或は一萬一千餘方里或は一萬四千方里と云ひ大体朝鮮と略々同一と思へば間違ひありません。人口も判然しませんか四百五十萬人から六百六十萬人と稱せられます。奇妙なことには女か割合に少なく、男子の六割二分位と申すことです。全人口の漸く一割か敎育を受けたもので極めて少なく殆んど全部か無敎育者です、昔は蒙古人獨占の國てありましたか清朝の頃漸く漢人か入り始め、蒙古の王族を籠絡して無暗に土地を取りては漢人の移住を勸め今ては全人口の三分の二は漢民族て蒙古人は主に北部に多く、回敎徒も多少ありましてこれは主に西方部に居ります

風習

蒙古人は元來游牧を業として農業は極く下手て、文化の程度も漢人には及ひません。今熱河地方の事情に通曉してゐる人の說に依りますと、蒙古人は肉食を主とし、性質單純て激し易く、然かも慾張りて猜疑心か强い、男女の關係も極めて亂れてゐて、貞操を堅持する婦人の如きは一人もないと申すことです。

漢人は粢食て、忍耐强く、勤勉て思慮深く、男女の關係も嚴格てありますか、性質はずるくて、たまし上手て自然蒙古人との間か非常に惡いのてあります。結局漢人は文化の程度低き游牧の民を追ひ出して其土地を占め、農業を營みまして斯くして蒙古人は漸次に北方に壓迫せられ貴族階級は清國政府に籠絡せられて財産は刺麻敎寺院の建築に消費し甚し叉富裕階級は其子弟を刺麻僧とすることを誇りとし一家擧つて其刺麻を生涯の義務ゝ負ひ漸次に生業を怠り勝となり家運傾き何れも衰滅に瀕する樣になりました斯くして昔日の勇敢なる蒙古人は、刺麻敎の普及によりて無氣遊惰の民となつて漢人の思ふ壺にはまつたのたと說く者もある位てあります。彼等の習俗か漢人と異なるのみならす今後又に充保護を加ふるの要かあります。故は滿洲國建國の際黑龍江省及奉天省の一部を割き從來の東部蒙古地方に新たに興安省を設けて、蒙古地方の行政は特に興安總署なる役所を置き滿洲の他の役所とは別に、蒙古人の行政を管轄してゐる有樣てあります、今回熱河か平定しました以上は前述の通り蒙古人の主に居住してゐる北部地方を興安省に編入して興安總署の管理に屬せしめることに成つて居りますか、其の原因は蒙古人の慣習を重んすると共に生として之を保護助成する爲めてあります

氣候

氣候は南部に峻險なる山岳、西部に興安嶺の大山脈を控へて、中部以北に沙漠地帶かあり西北境にはゴビ大沙漠が連つて居りますから日々の氣溫の變化か激しく、唯今より初夏にかけては日中は華氏八十度に昇ることかあり乍ら日沒後には零下七、八度に下つて降雪を見ることか少くない、此の氣溫の變化激甚なることは確かに熱河の一特徵てあります。雨は七、八月か雨期て霖雨は見られませんか驟雨の如く降るのてあります。携冬季に入りますと、寒、酷烈しく零下二十五度以上に及び、河面は一月下旬から凍り始め翌年三月中旬迄解けぬ有樣てす

怪人凱歌（二百十九）

（舞上演 映畫化） 須藤鐘一（著） 瀧秋方（畫）

更生の人々（三）

雲巖和尚は一通り話し終ると、

「それで、お前さんは、眞佐子さんの今居なさるところを御存じですかえ?」と、三木老人に問ひかけた。

「いや、その何でございます。肝腎の御本人の居所がまだ分らぬでございまして……」と、三木老人は頭をかく。

此の時まで、次の間に控へてゐた白瀬が、づか／＼と入つて來て

「和尚樣、眞佐子さんのことなら僕が何でもよく知つてゐますよ」

といふ。

「ほう!」と老僧は呆れて

「君は全く世話好きぢやなア。人事百般お世話引受所といふ看板でもかけちやどうだね。ハツハヽヽ」と、朗かに笑つた。

「して、只今眞佐子樣には、どちらにお出でなさいますでせうか。」

「實は私どもで、秘密探偵にまでかけて、いろ／＼搜させましたが、どうも分らないで困つてしまひました。銀座の何とかいふ美容院にお出になつた事までは突きとめましたが……」と、三木老人は率直に

「何分、眞佐子樣を絶えず狙つて、そのお命をとらうとしてゐる恐ろしい惡人が居りますのでな。一刻も早くお探し申して、御身邊をお護り致さねばならぬと思ひますんで……」

「いや、三木さん、その事についても、僕がもうちやんと危險のないやうにしましたから、大丈夫ですよ」と、白瀬が、事もなげに云つた。けれども、三木老人にはすぐに合點が行かぬらしい。

「相手は、とても凶惡な人間どもでございましてな、こちらが油斷してゐますと、どんな惱恐な事をするか分らぬのでございますので……」

「つまり、先代伯爵の遺言で、眞佐子さんに當然分けらるべき伯爵家の遺産の半分が、惜しくなつて眞佐子さんを亡きものにしようとするものがあるといふのでせう」

「それ、それです」と、三木老人は魅えず膝を乗り出す。

「ぢや、その惡人が伯爵の未亡人園子と、その參謀格の天野誠也であることも御存じですね」

「はい、その二人が誠に恐ろしい人たちでございまして……」

「ところが三木さん、御安心なさい。僕がその惡人どもには先頃、大きなお灸をすゑてやつたから、もう改心した筈です」といふ白瀬は、何も彼もスツカリ吞みこんでゐるらしい。

三木老人は一さい相手に先まはりされてゐるので、煙に卷かれてキヨトンとしたが、

「大丈夫でございませうか?」と

まだ不安は去らぬらしい。

「ぢやア斷りませう、僕が明朝にでも東京へ行つて本人の眞佐子さんを連れて來て、此方の和尚樣にお口添ひをしていたゞいて、父の藤兵衛さんとも話し合つたら昔の事もスツカリ納得が行くやうに分るでせう。さうして生きた證人を見出しておいて、伯爵家へ遺言狀履行の談判をするといふことに……」

「尤も未亡人の方では、そんなにまでされなくても、もう心から改悛された筈ですから、一議に及ばず財産の讓渡は承諾されると思ひますが……」

雲巖和尚は白瀬の言葉の終るのを待つて、

「それでは白瀬君、御苦勞ぢやが明朝東京へ行つて本人を連れて來さつしやい。萬事は其の上での事じや。拙僧も何なりとお役に立たせてもらひ度いものぢや」と、白鬚をしごいてニコ／＼する。

そこで、翌朝未明に白瀬は東京を發足して上京した。そして、その日の夕方、彼は藤田眞佐子を同道して歸山した。

雲巖和尚は大喜びで、

「ほう、眞佐ちやん、大きうなつたのう。まるで見ちがへるやうに美しうなつた。立派な伯爵令孃ぢや!」と、見上げ見おろして、相好をくづすのであつた。

第七回彩票當籤番號

第七回水災賑濟彩票中彩號碼

玆將中彩號碼列下自大同二年五月二十二日起在各地代賣所（限得彩金未滿參百圓者）及滿洲中央銀行各地總分支行（限得彩金在參百圓以上者）憑彩票発付得彩金（甲乙兩組號數相同）

大同二年五月十六日 滿洲國財政部

頭彩 壹萬圓 (1)
34.479

附彩（得頭彩號數之前後號數） 參百圓 (2)
34.478
34.480

二彩 參千圓 (1)
25.934

附彩（得二彩號數之前後號數） 壹百圓 (2)
25.933
25.935

三彩 壹千圓 (1)
26.915

附彩（得三彩號數之前後號數） 伍拾圓 (2)
26.914
26.916

四彩 伍百圓 (2)
2.368
48.708

五彩 壹百圓 (8)
9.937
16.812
25.801
42.679
49.699
395
3.670
7.779

六彩 參拾圓 (25)	
1.187	26.793
4.936	29.807
5.490	33.110
8.506	33.599
9.120	33.609
11.728	36.013
13.495	36.831
15.365	39.267
16.781	40.655
18.551	43.457
20.525	45.585
21.937	46.794
24.724	

七彩 拾圓 (80)			
1.941	21.889	38.003	45.734
2.613	22.462	41.079	45.939
2.787	22.774	41.886	46.047
3.333	23.364	42.059	47.490
4.704	23.996	42.322	47.817
5.528	25.453	43.553	48.468
7.881	25.756	44.164	48.709
8.675	26.396	44.632	49.201
10.976	26.575	44.780	49.362
12.784	26.578	45.347	49.599
12.998	26.634	45.520	49.704
13.526	26.768	45.546	49.828
13.899	28.009		
14.422	28.040		
14.802	28.776		
15.474	29.848		
15.584	30.313		
16.530	30.565		
16.854	30.955		
17.823	31.136		
17.862	31.807		
18.339	32.151		
19.134	32.408		
20.665	32.557		
20.892	32.882		
20.917	33.497		
21.344	35.137		
21.520	35.269		

八彩 伍圓 (500)

		2.879	6.133	8.124	10.907	13.786	16.588	20.981	24.583	27.304	29.979	32.931	36.605	40.109	42.971	47.017	49.644
		3.151	6.152	8.310	10.917	14.173	16.640	21.020	24.587	27.332	30.152	33.051	36.672	40.232	43.082	47.119	49.680
		3.155	6.232	8.604	10.964	14.246	16.787	21.032	24.619	27.379	30.166	33.125	36.698	40.409	43.108	47.149	49.735
		3.212	6.233	8.653	11.192	14.275	16.942	21.064	24.711	27.438	30.300	33.460	36.766	40.466	43.193	47.182	
		3.562	6.250	8.732	11.201	14.369	16.963	21.215	24.714	27.474	30.318	33.519	37.102	40.530	43.218	47.221	
		3.563	6.273	8.853	11.274	14.588	17.200	21.293	24.940	27.635	30.365	33.561	37.143	40.616	43.433	47.223	
		3.610	6.290	8.920	11.397	14.603	17.286	21.335	24.985	27.682	30.462	33.623	37.213	40.671	43.520	47.258	
		3.723	6.313	9.059	11.471	14.633	17.400	21.426	25.045	27.683	30.540	33.755	37.305	40.911	43.584	47.385	
		3.742	6.571	9.114	11.551	14.650	17.713	21.587	25.101	27.792	30.824	33.896	37.319	41.094	43.658	47.450	
		3.773	6.756	9.372	11.671	14.677	17.734	21.745	25.209	27.958	30.843	33.947	37.340	41.133	43.722	47.452	
		3.782	6.809	9.391	12.007	14.695	18.037	21.751	25.392	27.974	30.979	33.976	37.342	41.429	43.817	47.625	
		3.807	6.840	9.413	12.153	14.792	18.055	21.761	25.460	28.209	31.035	34.394	37.402	41.430	43.835	47.693	
		3.999	6.979	9.463	12.372	14.900	18.376	21.986	25.510	28.574	31.189	34.598	37.598	41.496	43.909	47.847	
		4.021	7.008	9.675	12.389	14.907	18.387	22.188	25.692	28.618	31.415	34.599	37.640	41.777	43.964	48.065	
		4.051	7.023	9.766	12.548	14.940	18.675	22.388	26.026	28.719	31.561	34.708	38.149	41.809	44.249	48.078	
231	1.415	4.092	7.100	9.891	12.565	15.070	18.714	22.659	26.101	28.722	31.564	34.730	38.188	41.878	44.568	48.236	
240	1.625	4.618	7.106	9.947	12.582	15.167	18.816	22.758	26.127	28.789	31.607	34.902	38.241	41.901	44.616	48.307	
331	1.692	4.642	7.198	10.070	12.658	15.219	18.826	22.878	26.139	28.806	31.760	34.903	38.369	41.998	44.703	48.363	
552	1.734	4.775	7.294	10.110	12.668	15.230	18.835	22.909	26.160	28.847	31.782	35.175	38.395	42.009	45.554	48.404	
651	1.767	4.874	7.499	10.115	12.713	15.271	18.881	23.041	26.606	28.918	31.838	35.339	38.399	42.044	45.605	48.609	
729	1.844	4.940	7.453	10.165	12.728	15.377	18.981	23.085	26.711	28.955	31.908	35.560	38.440	42.113	45.630	48.807	
758	1.919	5.172	7.568	10.189	12.770	15.439	19.189	23.266	26.759	29.122	31.917	35.648	38.630	42.420	45.763	48.808	
775	2.017	5.481	7.738	10.285	12.755	15.461	19.351	23.329	26.824	29.295	31.995	35.741	38.794	42.438	45.809	48.821	
843	2.188	5.557	7.807	10.429	12.990	15.592	19.515	23.638	26.883	29.364	32.092	35.764	39.265	42.687	45.909	48.904	
848	2.269	5.561	7.811	10.534	13.001	15.619	19.527	23.679	26.902	29.386	32.124	35.823	39.495	42.717	46.321	49.000	
903	2.315	5.881	7.837	10.569	13.172	15.765	19.645	23.895	26.975	29.623	32.126	35.837	39.562	42.775	46.397	49.149	
1.019	2.360	5.942	7.904	10.632	13.179	16.047	20.157	23.948	26.980	29.687	32.261	35.974	39.773	42.854	46.537	49.163	
1.104	2.461	5.945	7.912	10.660	13.392	16.053	20.393	24.116	26.990	29.714	32.544	36.102	39.779	42.896	46.746	49.334	
1.116	2.623	6.014	8.010	10.694	13.415	16.196	20.417	24.170	27.070	29.786	32.816	36.312	39.830	42.906	46.901	49.438	
1.268	2.682	6.032	8.067	10.740	13.421	16.260	20.625	24.179	27.219	29.862	32.912	36.456	39.878	42.927	46.933	49.465	
1.351	2.804	6.055	8.095	10.831	13.581	16.491	20.904	24.409	27.289	29.959	32.918	36.568	40.031	42.934	46.987	49.580	

末彩 壹圓 (4.999)
與頭彩末字相同者 9字

動機[illegible]行動は罪に問はる
犬養首相射殺事件記事解禁さる

帝國未曾有の不詳事
現役在郷陸海軍人及び憂國團體が結合
先づ犬養首相を官邸に襲ふ

（東京十七日發國通）昭和七年五月十五日勃發した所謂五、一五事件即ち現役陸海軍人と豫備軍人その他が共謀して時の內閣總理大臣、犬養毅氏を首相官邸に襲擊して之を射殺し更に同時に警視廳、政友會本部、日本銀行牧野內府邸、三菱銀行、西田稅、淀橋發電所以下を襲擊したる事件の後報は其後掲載禁止となつて居たが、現役陸海軍人を裁く軍法會議と共に豫審の終結を見たので五月十七日を以て禁止を解かれた

同事件は帝國未曾有の出來事であると共に民間右翼團体と種々の聯繫を有しその犯罪の內容は交錯を極め之が爲め檢事局は勿論軍法會議でも事件の核心を摑む上に非常なる努力を拂つたものである

左に同問題の內容を報導する

事件關係者一覽
（年齡は事件當時のもの）

（東京十七日發國通）五、一五事件に關係した被告の氏名は左の如くである

海軍側、合計十六名

△直接關係者

本籍佐賀縣佐賀郡本庄村
妙高乘組、海軍中尉　三上卓（二九）
本籍新潟縣高田市中屋敷町四七
横須賀鎭守府附、海軍中尉　山岸宏（二五）
本籍小倉市富野町二二〇五
霞ヶ浦海軍航空隊附、海軍中尉　中村義雄（二五）
本籍佐賀市道祖元町四六
霞ヶ浦海軍航空隊附、海軍中尉　古賀清志（二五）
本籍佐賀縣小城郡北多久村字多久原五三
蓮乘組、海軍少尉　村山格之（二五）
本籍佐賀縣小城郡東多久村別府
海軍豫備少尉　黑岩勇（二九）

△共犯關係者

本籍鹿兒島縣肝屬郡鹿屋町中名六〇三
休職海軍大尉　塚野道雄（三五）
本籍長崎縣西彼杵郡長與村本庄名二二九一
出雲分隊長海軍大尉　田崎元武（三〇）
本籍長野縣更級郡村上村大字上五明七六七
足柄乘組海軍大尉　鈴木四郎（二八）
本籍福岡縣京都郡延永村大字園一〇二一
菊乘組機關大尉　村上功（二九）
本籍熊本縣飽託郡池上村高橋九一八
佐世保鎭守府附海軍中尉　林正義（二八）
本籍山口縣大津郡仙崎町二一二二
[illegible]勇　大庭春雄（二五）
龍驤乘組海軍少尉
本籍青森市大字大野七八　伊東龜城（二六）
佐世保鎭守府附海軍少尉
本籍福岡縣三潴郡川口村大字一木一三一六　古賀忠一（二六）
足柄乘組海軍少尉
本籍愛媛縣溫泉郡原村大字正月寺一七〇　澤田[illegible]郎（二六）
日向乘組海軍少尉
本籍長野縣諏訪郡宮川村字中河原四〇四二
海軍大學選科學生海軍大尉　濱勇治（二八）

右のうち濱大尉は血盟團關係者として五、一五事件發生前に檢擧されたものであるが、目下精神に異狀を來し横須賀海軍病院に入院中で分離されることになつてゐる

尙海軍關係者は全部待命となつてゐる

陸軍側、合計十一名

本籍大分縣大野郡犬飼町大字下津尾三七三一
元步兵第四十五聯隊附陸軍士官學校生徒　後康映顯（二五）
本籍山口縣山口市大字宇野令一六三三
元野戰重砲兵第四聯隊附同上　中島忠秋（二五）
本籍愛媛縣宇摩郡川瀧村大字柴生五八一
元飛行第四聯隊附同上　篠原市之助（二四）
本籍愛媛縣越智郡乃萬村大字矢田甲五六七
元飛行第六聯隊附同上　八木春雄（二四）
本籍山形縣米澤市本五十騎町四八八五
元步兵第七十三聯隊附同上　石關榮（二四）
本籍山口縣都濃郡下松町大字東豐井一〇二六
元步兵第七十七聯隊附同上　金淸豐（二四）
本籍青森縣弘前市大字鹽分町三四
元步兵第三十一聯隊附同上　野村三郎（二三）
本籍福岡縣福岡市地行東町一四四
元步兵第七十九聯隊附陸軍士官學校生徒　西川武敏（二三）
本籍茨城縣東茨城郡酒門村大字酒門六六
元飛行第六聯隊附同上　菅勤（二三）
本籍宮崎縣北諸縣郡西嶽村一九九〇
元野砲兵第一聯隊附同上　吉原政己（二三）
本籍宮崎縣西諸縣郡飯野村大字原田三六一
元步兵第七十五聯隊附同上　坂本象一（二三）

非軍人被告一覽

△非軍人側　合計二十名

本籍　山形縣飽海郡西荒瀬村字總塚二二五戸主
住所　東京市品川區上大崎二三二一
黑幕巨頭、神武會會長　大川周明（四[illegible]）
本籍　日本橋區蠣殼町三ノ一三戸主
住所　茨城縣新治郡眞鍋町字眞鍋臺一、三三二一
黑幕巨頭、紫山塾頭　本間憲一郎（四[illegible]）
本籍　東京市澁谷區常盤松町一二、三男
住所　杉並區阿佐谷二の六の六
黑幕巨頭、天行會會長　頭山秀三（三[illegible]）
本籍　水戸市上市馬口勞町二二〇八平民鐵太郎弟
住所　茨城縣東茨城郡常盤村三〇三九、愛郷塾內
首謀者、愛郷塾長兼愛郷會長　橘孝三郎（四一）
本籍　茨城縣西茨城郡笠間町一二〇九戸主與吉二男
住所　愛郷塾內、
橘の秘書　春田信義（二七）
本籍　茨城縣東茨城郡常盤村三〇三九
住所　右同愛郷塾內
參謀、橘の義弟　林正三（四一）
本籍　愛知縣寶飯郡蒲郡町字神ノ郷字殿屋敷八戸主平民
住所　愛郷塾內
同志連絡係、愛郷生　杉浦孝（二五）
本籍　茨城縣那珂郡五臺村字東木ノ倉八一六戸主平民
住所　愛郷內
襲擊隊長、橘の高弟　後藤圀彥（二三）
本籍　茨城縣那珂郡勝田村字武田五三九戸主龍男叔父
住所　愛郷塾內、
鬼怒電尾久町變電所襲擊　大貫明幹（二四）
本籍　茨城縣鹿島郡沼前村字網掛一一三戸主與四郎二男
住所　水戸市上市柵町四ノ一八
納豆商笹沼淸左衛門方雇人
鬼怒電尾久町變電所襲擊　相澤義夫事　高根澤與一（二三）
本籍　茨城縣西茨城郡笠間村字桝形一三六二ノ二戸主
住所　愛郷內、東電田端變電所襲擊　三好恒久事　塙五百枝（二三）
本籍　茨城縣久慈郡世矢村字小目一九八七戸主龜吉二男
住所　愛郷內、東電龜戸變電所破壞　藤田武雄事　矢吹正吾（二三）
本籍　茨城縣那珂郡大賀村岩崎三一九戸主一郎弟
住所　愛郷內、東電目白變電所襲擊未遂　小室力也（二三）
本籍　茨城縣東茨城郡上大野村字中大野戸主雷次郎孫
住所　本籍に同じ
東電鳩ヶ谷變電所襲擊　横田久雄事　橫須賀喜久雄（二三）
本籍　廣島縣安藝郡普戸村字畑戸主作助甥
住所　（當時）東京市中野區藥師町四五三林新太郎方
三菱銀行投彈、明大生　奧田秀夫（二四）
本籍　茨城縣那珂郡前渡村字前濱戸主四男の二男
住所　同右、西田稅襲擊犯　川崎長光（二三）
本籍　同茨城縣那珂郡湊町長崎戸主俊宗長男
住所　同右、西田稅襲擊共犯
訓導　照沼操（二六）
本籍　茨城縣那珂郡前渡村字前濱戸主菊太郎二男
住所　同右、西田稅襲擊共犯　黑澤金吉（二六）
本籍　茨城縣那珂郡湊町泉町八〇三戸主伊勢次郎次男
住所　同縣那珂郡前崎村東米崎[illegible]寅松方
西田稅狙擊共犯　訓導　堀川秀雄（二六）
本籍
住所
警視廳襲擊（陸軍より廻附）
陸軍士官學校中途退學　池松武志（二四）

△死亡し、公訴消滅したるもの一名

本籍　宮崎縣北諸縣郡中郷村字安久三九九〇重則弟
住所　茨城縣新治郡眞鍋町字眞鍋臺一三三二
柴山、本間憲一郎方
東電淀橋變電所襲擊　溫水秀則（二二）

△釋放されたるもの四名

本籍　東京市豐島區長崎町一六二戸主
住所　同市同區雜司ヶ谷一一五、建設社（出版業）
の知人　坂上圓一郎（三六）
本籍　佐賀縣岡崎郡十歲村字柳島一三〇七
戸主　士族篤二長男
住所　東京市杉並區高圓寺五一一、堤次男方
明大生　中橋照夫（二三）
本籍　茨城縣行方郡潮來村九七戸主利三郎孫
住所　同右、愛郷會支部長　宮本幸雄（二七）
本籍　茨城縣那珂郡前渡村字湊渡二八一六戸主
住所　福島縣石城郡中町南町七八
愛郷會同志　小野田伊右衛門（二八）

橘孝三郎の激勵

後藤圀彥は農民隊を組織して變電所を襲擊する事を命ぜられた

又第一第二第三班は計畫實行後全部警視廳を襲擊したる後憲兵隊に自首する事を申合せ海軍側は古賀中尉、陸軍側は池末が指令の任を取る事となり後藤は歸途古賀中尉よりピストル一挺實彈六發手榴彈六個を受取つた

愛郷塾頭橘孝三郎は五月一日更に一同に對しいよいよ實行に着手するからとて夫々旅費として六十圓乃至八十圓を與へ斯くして十三名は夫々入京した、それは五月十日の事であつたその人々は左の如くである

橘孝三郎　後藤國彥
林正三　大貫明幹
矢吹百枝　溫水秀則
橫須賀喜久雄　春日信義

一行十名は靑山青年會館に宿泊し非常手段決行日時を五月十五日午後七時とし一齊に變電所を爆破すべく決定した旨橘より告げ各自の部署を定めた

淀橋變電所　溫水
目白變電所　小室
田端變電所　大貫
（高根澤與一同行の事）
小松川變電所　矢吹
尾久變電所　塙
鳩ヶ谷變電所　横須賀

席上橘は爆彈は海軍方面より六個入手するがピストルの入手は不能となりたるを以て各自短刀一本宛を交附すべきに付行動を防止するものあらばこれを刺せと告げ尙軍部で當日要路の大官を暗殺する手筈であるから指定變電所を爆破し以て市內を暗黑混亂に陷れ軍部の活動をして意義あらしめる樣特に努力せよと訓示し右參加者には金十圓宛を交附した

陸海軍人關係者
犯行の眞相！
當局取調べの內容

五月十五日不詳事件の軍部關係者は海軍側將校連が[illegible]、血盟團の[illegible]と連絡あり、思想問題で陸軍士官學校を退校になつた元候補生池末武志も血盟團を通じて同誌と知合つたものであり、而して士官學校在學中の後藤候補生外十名は池末に引摺られ遂に海軍側と共に事を決行するに至つたものである

彼等暴行者が使用した手榴彈及拳銃等の大部は上海事變出動中三上中尉が襲擊用として準備し凱旋の際持歸り茨城縣土浦町の山水樓で同志海軍士官等と協議の上、隱匿に最も便なる陸軍士官學校半途退學の池末武志宅に委託し池末は此等兇器を自宅床下深く保管して居る、尙事件後當局取調べの結果、判明したる犯行の眞相は左の如くである

首相官邸襲擊

首相官邸を襲つたのは第一班三上海軍中尉以下左の九名である

△海軍中尉三上卓△海軍中尉山岸宏△海軍少尉村山格之△豫備役海軍少尉黑岩勇△士官候補生後藤映範△同篠原元之助△同石關榮△同八木春雄△同野村三郎

右九名は豫ねての計畫に據り當日午後、時を期して三々五々九段靖國神社々頭に集合し三上中尉の指揮で通りかゝつた圓タク二臺に分乘し何處にか姿を消し去つた

間もなく午後五時四十分頃之等の一臺の自動車は永田町首相官邸附近に姿を現はし、九名は各々悲壯なる決意を胸底に秘めて緊張し切つた顏で表玄關にかゝり居合せた田中巡査に首相との面會取次を强要した、取次手間取ると見るや九名は同巡査を包圍して隱し持つたる拳銃を擬して威嚇したので「どうしよう」と云ふのだ」と田中巡査が應酬するや「よけいな事を云はずに首相に會はせろ」と尋常ならぬ見幕を示して迫つた、已むなく同巡査は一同の案內役として表玄關から右折して日本間へ同所にかけて飛燕の如く身を躍らせて內側に飛込み手早く帶戸を閉め切つた、激昂した一同は賊侵と共に殺倒し帶戸を蹴破つて奧日本間の方へ闖入しようとした時悠々として老軀を現した犬養首相は「何を騷ぐのだ騷がんでも物は分」と泰然として一同の前に進んだ、九名は殺氣に血走つた眼でグルリと首相を取卷き黑岩豫備少尉が低聲で何事か云つたが、首相は空耳に聞流して卷煙草へ火を點じ悠々吸ひかけんとした、此刹那黑岩は低く鋭く一聲「擊て…」と命令し首相目がけて三上中尉が同樣を放す續いて三上中尉が同樣狙擊し他の七名は血に染つて倒れる首相を見下ろしつゝ天井に向けて各々一發を放ちサッと其場を逃げ出したが、田中巡査が一同を追跡せんとしたので何人かは數發を亂射し同巡査に命中斃れるのを見濟して再び自動車に乘り憲兵隊へ自首したものである

牧野內府邸襲擊

牧野內府邸を襲つたのは中村海軍中尉の一隊で中尉の外に中島、金淸、吉原の三士官學校生徒がやはり同日夕刻自動車で芝の內府邸表門へ乘着け士官候補生三名は自動車より降り立つて玄關で內府に面會を强要したが、果さず中島、金淸の兩候補生は玄關前に於て二發の爆彈を投げたが、幸ひに不發で事無きを得た

この狀況を目擊した邸內警戒の松井巡査は生徒を逮捕せんと追跡したる所、自動車上にあつた中村中尉は車窓より半身を乘出して松井巡査の背後より拳銃一發を發射して同巡查を昏倒せしめ邸內騷然となるに及んで一同を督し悠々自動車で伊皿子方向へ逃走したものである

行動班分擔表

△第一班　海軍中尉
三上卓（妙高）
同　山岸廣（橫鎭）
同少尉村上格之（同上）
黑岩勇（豫備）
（右事件直後自首と同時に麴町憲兵分隊に收容）
上官學校本科生徒後藤映範
同　篠原市之助
同　石關榮
同　八木春雄
同　野村三郎
（同上赤阪分隊に收容）

右第一班は五月十五日午後五時頃靖國神社境內に集合自動車にて同日午後五時三十分首相官邸に到着、表玄關して首相に面會を求め應接間に入らんとしたる際、後方の一名よりり「打て」と號令し、一行はピストル三發を發射

△第二班
海軍中尉古賀淸志（霞ヶ浦）
（澁谷分隊に收容）
士官學校生徒　阪本謙一
同　菅勤
同　西川武敏
士官學校退學　池末武志
（牛込分隊に收容）
右時刻同樣泉岳寺に集合、自動車にて牧野內府邸に至り午後五時二十七分正門到着、塀より邸內に向け手榴彈二個を投擲したるも一彈は不發に了り一彈は破片が樹木と玄關附近に小損傷を與へた尙警戒中の橋井巡査に對し入門方を强要し、ピストル一發を發射し同巡査の右肩に命中し、ピストル一發を發射し[illegible]に手榴彈二個を投擲、玄關コンクリートに輕傷を與へたが、直に自動車で同處を退出し更に警視廳に赴き手榴彈一個を投じた

△第三班
海軍中尉中村義雄（霞ヶ浦）
（澁谷分隊に收容）
士官學校生徒　中島忠秋
同　金淸豐
同　吉原政已
（牛込分隊に收容）
右同時刻新橋驛に集合、自動車にて政友會本部に至り同玄

×川崎長光×

同人は十五日午後五時三十分西田稅を襲擊ピストルを時射重傷を負はせた、その後警視廳の手に依り芝區本芝法音寺境內人夫請負業新村三男方にて逮捕された

爆彈等の出所

一味のものが調達した手榴彈廿一個は三上中尉が二月下旬上海に陸戰隊大隊參謀在勤中第三大隊砲術科倉庫より取出し、同地にて村山少尉に手交し村山はボール紙或は新聞紙に包み佐世保に持ち歸り同地にて黑岩豫備少尉に交附、同少尉が携行して上京したものである、ピストル十三挺は海軍砲術學校學生たりし村上少尉が上海事件に際し出征中モーゼル式ピストル中型九挺同小型三挺計十二挺を入手し上海、佐世保間の通信艇の乘組海軍少尉大場春雄に託し同少尉は四月上旬頃鐵道便にて霞ヶ浦航空隊古賀中尉に送附した、他の一丁は南部式で村山少尉が豫て所持してゐたものである、又ピストル實彈は上海で村山少尉の手により百六十發入手古賀中尉に送附したものである

—行動の計畫—

此事件の中心人物である海軍將校らは井上日昭等の暗殺血盟團と思想相通ずるところあり、現在の行詰れる時局を打開するには既成政黨官憲の壓迫等を打破する要あり、之がためには直接行動を敢行し以て改造斷行の氣運を促進せしめざるべからずとなし、井上一味の血盟團檢擧直後より計畫に着手し豫て權藤成郷安岡正篤等を介し相知つた茨城縣の愛郷塾後藤圀彥、明大豫科一年生奧田秀夫等とも連絡を取り計畫斷行の前々日即ち五月十三日に茨城縣土浦町山水閣に古賀中尉、中村中尉、奧田、池末、後藤の五名會合古賀中尉より計畫實行に關する、內容を打明け協議の結果前記の行動分擔する內容を打明け協議の結果前記の行動分擔が出來たものである。尙此の會合に於て奧田秀雄は三菱銀行、首相官邸、牧野內府邸工業俱樂部の狀況偵察を命ぜられた

事件と傍系の變電所襲擊事件

五、一五事件の傍系事件として活躍し、東京市附近の發電所を爆彈を以て破壞し東京全市を暗黑に陷らしめ、首相暗殺に伴ふ人心の不安に乘じ、全市を大混亂化せしめ、更に之に乘じ大事を爲さんことを企圖して居た水戸愛郷塾橘孝三郎一派の所謂農民決死隊は七月二十四日ハルビンに於て首魁橘塾頭が自首したことによつて關係者二十二名の檢擧は一段落を告げた形となつた同件の內容は一部新聞紙に掲載を禁止されてゐたに過ぎずその大部分は既に報道濟みとなつてゐるが、五月十六日同事件の全部の掲載解禁と共に此に事件の全貌を報道する事とした

行動隊員の役割一覽表

△首領愛郷塾頭　橘孝三郎
△行動隊長　後藤圀彥
△三菱銀行　奧田秀夫
△鳩ヶ谷變電所　橫須賀喜久雄
△尾久變電所　塙五百枝
△目白變電所　小室力也
△小松川變電所　矢吹正吾
△淀橋變電所　溫水秀則
△市內田端鬼怒變電所　大貫明幹
△西田稅氏暗殺　川崎長光

以下朝刊へ續く

記事訂正　十七日附夕刊幹部候補生任官の記事中蝦名博氏を元林洋行店員とあるは元林洋行に同居し中央銀行々員につき訂正

戰既にワンラの形

皇軍向ふ處敵なく 豐潤を完全に占領

敵は蜿々長蛇の如き退却の線 そこへ爆擊の洗禮

高田部隊及び平賀部隊は昨日午後五時四十分豐潤を占領した
(承德十六日發國通) 服部々隊十五日夕刻遷化に入城、息つく間もなく更に前進を續け豐潤方面より西進の松田、高田、平賀各部隊と南北に併行、相呼應して潰走する敵を追擊中である

◎飛行隊の寺本少佐談

(錦州十六日發國通) 前線より飛來せる○飛行隊の寺本少佐の談に依れば、潰走せる敵は豐潤より玉田方面に退却中で同少佐は○機で之を追ひ爆擊を加へて殆んど殲滅せしめ、豐潤、唐山、開平附近の敵狀を視察したところ敵の陣地は認められたが敵兵は見ず、退却中の敵兵は抵抗の意志なく爆音に銃を捨て民家に遁入する有樣だと

北平既に指呼の裡 皇軍の士氣將に衝天

服部々隊は破竹の勢を以て敵を掃蕩し昨十六日夕刻遷化に入城し高田松田兩部隊は豐潤を占領し城頭高く日章旗を飜した
服部々隊と呼應する爲北進せし松田部隊は南轉して十一時頃豐潤東北方北密附近に於て敵を擊破し豐潤西北三里豐潤玉田街道中にある沙流河鎭に進出した。遷化は北平より二十有里にして其廣漠たる平野は道路四方に發達し交通の便すこぶる良く全軍の士氣大いにあがつた

平津を完全に遠卷 北平の有力者悉く漢口へ避難

(山海關十六日發國通) 長城線確保の爲關內に進出暴虐なる支那軍を追擊猛進中の我軍は今や平津を完全に遠卷にした
(十六日) 高田部隊は豐潤に十六日午後五時四十分入城し喜峰口より出發の服部々隊は三屯營附近の敵を掃蕩中であつた部隊と協力し、敵の背後を斷つべく興城鎭に迫り、又平賀部隊は本日正午灤平を占領、堂々入城した
斯くて灤西地區一帶の支那軍は各所に於る我軍の猛擊に今や收捨すべからざる混亂に陷り唐山に於ては支那反逆軍の爲內亂起らんとし危機刻々に迫りつゝあり
一方北平の支那軍官署は反逆派の手に入るを恐ぐ爆破されんと計畫されて居る由で、平津の有力者は殆んど漢口に避難したさ

北平市民避難 停車場大混亂を呈す

(北平十六日發國通) 表面飽く強硬態度を裝ふた軍事分會も遂に正体を暴露して、南遷準備を爲し十二日重要職員の家族の自由避難を許可したが、之を聞き知つた市民は市外に逃げ出すもの引きもらず、これが爲汽車は切符賣場は大混亂を呈し、十六日は遂に之が整理の爲運警が出動した

丁強軍協力 ○○を目標に進擊

(山海關十六日發國通) 丁強軍は灤東の敵を擊滅し十五日午後より追擊を開始し十六日は前猛進中であるが敵は灤河の鐵橋を破壞せる爲一日昌黎より臨時列車で前線に出發した丁強司令は暗黑さ鐵路破壞の爲已むなく午後九時半一度引返し、再び十六日朝昌黎新線令部は灤州に移動し○○を目標に追擊中である破竹の勢で進む日本軍さ協力し關內肅清に効果を收めつゝあり、バザンの敵兵も之に合流せんさするもの續出しつゝある

北平の寶物 五千八百餘箱 南京へ送らる

(北平十六日發國通) 我軍密雲に迫るさの報に北平は動搖を來し、北平故宮及び頤和園の寶物五千八百四十四箱は十五日朝南京に向け送り出された

廣東廣西兩派の軋轢 極めて濃厚

(天津十六日發國通) 最近中央軍の北上部隊は陝西省楊虎城に屬する湯飲齊の四十二師約一萬五千湯玉麟の八十七師約四千五百、砲兵七團等で支那側が、對日戰爭と云へば護符の如く宣傳する十九路軍は僅か四、五十名の宣傳係が北上した許りで、本隊は北上へさへない、元來西南は頗る強硬なる抗日戰を叫び乍ら胡漢民さ陳濟棠との反目は廣東、廣西兩派の軋轢となり廣西派は雲南及び十九路軍さ連絡して反蔣、反陳運動を起し北方の危急を顧みる暇がない狀態にある

けふの銀相場

鈔票	金票	一〇四・六〇
大洋	金票	六六・六〇
國幣	金票	六六・五〇
大洋	鈔票	六四・〇〇

依然機を窺ふ 東鐵赤系従業員組合

ゼネストーサボーテローさ依然薄氣味惡い沈默を續けてゐる東鐵赤系従業員寛城子組合は滿洲國遊動警察隊の嚴重な監視さ、最惡の場合を豫期した滿洲國側の周到な對策に、幹部は極力強硬分子を慰撫してゐるが、ハルビンの従業員組合本部は依然頻々として「最善の方法を以て滿洲國及び滿鐵の情勢を極力蒐集監視すべし」又「目下の情勢は我方に執り不利なるも事態を靜觀し若し新事態の發生を看取すれば直ちに所定の行動に移れ」等さ指令し來り、事態尚樂觀を許さぬものあり、滿洲國では該鐵道の國際幹線なるに鑑み一層監視を嚴重にして居る

滿洲里東鐵倶樂部出火 放火の疑濃厚

(ハルビン十六日發國通) 滿洲里の東鐵従業員倶樂部より十六日午前一時出火し折柄の強風に煽られて同三時まで深夜の空を焦して燃えさかり、同倶樂部建物は丸燒けさなつた損害約十二萬圓と見られてゐる
原因については目下取調中なるも放火の疑ひ濃厚であり、赤系従業員の不穩計畫說頻りに傳へられ居る際とて各方面の神經を尖らせて居る

外務省辭令

(東京十六日發國通) 十六日の閣議で左の如く正式決定、上奏御裁可を仰ぎ即日發令

特命全權公使 重光葵
任外務次官 一等
外務次官 有田八郎
依願免本官

局面俄かに急轉換 河北に新中央政權を樹立か 蔣介石黃郛に密令

(南京十六日發國通) 北平政務整理委員會委員長黃郛の北上は河北の情勢に一新展開を來すものとして注目されてゐるが、確聞するに彼の今頃の北上は蔣介石の密令により河北に中立政權樹立を條件に日本側との最後的重大折衝をなすにありとされ、政務整理委員會への責任轉嫁を企圖しつゝある、何應欽と彼の間に如何なる協議が行はれるか兩者が如何にして國民の糾彈を切拔けるかは異常な注目を惹いてゐる

戰敗れて欽北平落ちか 責任轉嫁の大芝居

(北平十六日發國通) 平津の危機を前に保定逃出を傳へられて居る何應欽が如何なる方策で國民の糾彈を避け責任轉嫁を圖るかは非常な興味を以て見られて居るが、何は南下の理由として從來屢々蔣介石の北上を促したが蔣は剿匪及び政務多端の理由として北上せず此際是非何自身南下して直接蔣に報告及び打合せをなす必要ありとし、十六日濟南を出發した、黃郛と時局收拾策に就て協議の後、後事を手際良く北平政務整理委員會になすり付けるといふ巧妙な責任迴避と離局轉換の大芝居を打つて北平落ちをなすものと觀測されて居る

平津の重要地點に 舊東北軍を駐屯

(天津十六日發國通) 方振武軍の威壓の爲保定方面に出動中なりし于學忠の百十八師は十五日楊村に歸來した、又張庭樞(張作相の息)の百二十師も郞房に移屯した、平津の治安緊急を告ぐる際平津の間に最も重要なる中心地點に舊東北軍を集中せしめた事は注目を惹いてゐる

庚子條約を持出し 日本飛行機の飛來抑制に狂奔

(天津十六日發國通) 我飛行機の襲來に極度に怖えた支那側は、何とかして日本飛行機の北上を阻止せんとの苦心の結果遂に庚子條約を持出し條約に北平、天津市外二十支里以內に於て戰事行動をなすを得ずと明記されてゐるから、平津の治安は絕對に保證されて居ると稱して居る

反滿記者シノックスへの退去命令を發す ハルピンで問題化す

(ハルピン十六日發國通) 反滿記者レノックス・シンプソンは英總領事館內に寄宿し退去命令を承認せぬ模樣で、ガルスティン總領事は英政府より追放命令は治外法權を認めて居る條約の違反故、滿洲國に抗議する訓令を受けて居り、滿洲國側としても追放する權利ありとて讓らず、交渉を續けて居る

丁士源氏 十八日參內

(東京十六日發國通) 駐日全權公使丁士源氏は十八日午前十一時參內し、鳳凰の間で陛下に謁見、溥儀執政の親任狀を捧呈し、皇后陛下に拜謁賜はる旨十六日正式に仰出された

城戶大每取締役來京

大每取締役會長城戶元亮氏は代議士一行さ同車十六日午後七時五十分支局員その他新聞通信關係者出迎へ裡に着京した

日滿合辦 通信會社 日本側設立委員決定 二十日に初會合を行ふ筈

(東京十六日發國通) 日滿合辦通信會社の協定に基き滿洲國設立委員中の日本側委員十五名の顏振れは、十六日の閣議で左の通り決定正式に發表された
外務省谷亞細亞局長、栗原總領事、大藏省藤井主計局長、陸軍省山岡、岡村兩少將、高屋工兵大佐、海軍寺島中將、司法省大森民事局長、遞信省、山本電務局長、拓務省、北島殖產局長、關東廳、日下內務局長、藤井遞信局長、米澤佐七氏、山內靜雄氏、西田伊之助氏
右委員は來る二十日午前十時拓相官邸に初會合を行ひ、拓務省並びに各關係者列席の下に今後の會社設立に關する方針に就き打合せを行つた上、更に滿洲國設立委員さ協議を遂け、具體案を決定する段取である

味の素社長 十七日奉天へ

(大連十六日發國通) 滯在中の「味の素」社長鈴木三郎助氏は十七日午後四時半發列車で奉天へ向ふ筈

新潟縣物產紹介所長新任

新潟縣物產紹介所では新京に出張所を設け所長として地方商工技師落合光亮氏着任、內海新京商工會議所員の案內で十七日關係方面へ挨拶に歷訪した因に當分事務所を新京商工會議所內に置くさ

竹中理事來京

竹中滿鐵理事は昭和七年度決算報告のため十六日午後四時半大連發來京の豫定

建國記念大運動會 準備委員會開催

第二回建國記念大運動會準備委員會は本日午前十時から文教部總長室で開催された、參集した委員は關東軍より一名、關東廳より二名、滿洲國より三名、各省の教育廳より二名乃至三名である

皇軍慰問の代議士團來る 滿洲視察をも兼ねて

衆議院派遣の在滿將士及邦人慰問代議士團熊谷直太氏他十四名は衆議院議員書記官西澤哲四郎氏他一名を隨へ十六日午後七時五分多田少將、三浦憲兵中佐、磯田少佐、高山署長軍部民間よりの多數歡迎裡に新京に到着、一同驛貴賓室に一日休憩の後夫々滿蒙旅館梅屋旅館に分宿したが、團長熊谷氏は語る
今度の旅行は在滿の皇軍及び邦人の慰問に在るが、同時に滿洲の現狀を認識して歸り度いと一同考へて居る幸ひ關東軍の絕大の援助があるから充分視察も出來るだらうが、出來れば山海關も熱河も見て歸り度いと思つて居る

人事往來

▲竹中理事(滿鐵)十七日午前八時來京
▲日下內務局長(關東廳)同上
▲林鈴務局長(關東廳同上)
▲伊藤軍醫部長(關東軍軍醫部長)十七日午前八時來京
▲喜多大佐(關東軍參謀)同上
▲程崇氏(東省特別區高等法院々長)十六日午後三時十五分來京
▲酒井少佐(鐵道部隊材料廠)十六日午後四時三十分南行

團體

▲朝鮮教育團二十四名十七日午前六時四十分來京
▲小倉商業生三十五名十七日午前六時四十分來京
▲大阪女子師範生六十六名十七日午前六時來京
▲廣島商工會議所主催視察團十六名十七日午後三時三十五分來京
▲釜山公立中學生十七日午前六時四十分來京同日午後四時三十分南行
▲長野縣慰問團十七日午後三時三十分大連へ
▲滿蒙視察協會團十七日午前六時四十分公主嶺新京間往復

海外經濟

▲銀塊及爲替
倫敦銀塊 [illegible]
紐育銀塊 [illegible]

市況

▲上海日本向 第一回 100、300 101、000 第二回 第三回
▲上海票金 昨止値 爲高値 安値 本寄 歩値 [illegible]
▲上海倫敦向 一志二片八分五
▲上海紐育向 一志二片六分二
▲大連金鈔票 賣値 買値 現物 寄付 込値 歩 [illegible]
▲大連上海向 止値 高値 安値 引値 出來 [illegible]
▲綿 ●米綿 現物 七月限 九月限 十一月限 一月限 三月限 五月限 ●印綿 ブローチ ベンゴール オームラ [illegible]
▲綿花 孟買銀塊 米英爲替 米日爲替 米支爲替 スチール株 アナゴンダ株 [illegible]
▲大連煙台向 [illegible]
▲阪神日米爲替 第一回 第二回 第三回 [illegible]
▲阪神日英爲替 賣値 買値 一志二片六分二
▲大連特產 ●大豆 袋込 六月限 七月限 八月限 九月限 十月限 ●豆粕 現物 六月限 七月限 八月限 九月限 十月限 ●豆油 現物 六月限 七月限 八月限 九月限 十月限 ●高粱 現物 五月限 六月限 七月限 八月限 九月限 [illegible]

新京市況

大豆 現物 出來高 高粱 現物 出來高
▲錢鈔(現物) 鈔票對金票 大洋對金票 國幣對金票 大洋對鈔票 [illegible]

幕末異聞 愛慾火箭

作 瀧川駿
畫 村瀨洗舟
（上海上映）

（五十七）

六角の獄舎（二）

夜風に、柳の小枝が揺れる。
濡れ渡つた夜空は、銀砂を撒き散らしたやうな星夜だつた。
近江屋の主二次の手代は、事に依然に露顕したので、京都中の岡ッ引を総てろへと言つた風に召集して兇状持の捕縛をやつた。
殺王の志士の隠れ家りの手入れに今は京都の町に、身をひそめるた所もなく、一時田舎へ逃げ延びた。だが捕縛のうき目に遭つたものも多かつた。
『危険、身が危いぞ。一時姿を隠せよ』
今し方も祇園の初島楼で、藤堂の大久保一蔵と、斯う言つて別れて来た所であつた。
夜風に袂をなぶらして、堀川沿ひに寂しい住居、等持院の傍の我家へ帰る途中だつた。
『お千どのの初七日まで京都に居やう。それがお千殿へ、せめてもの手向けにならう』

こんな事を考へ乍ら押小路から川端へかゝつた。
『居るな？』
興四郎は心の中で、斯う頷くと雨後の路にゆるく雪駄を鳴らして、居酒店でうどんを喰つてゐる男の背後を静かに歩んで行つた。
『ふゝ』
興四郎の顔には、軽い笑みが浮んでゐる。だが幸ひに覆面してゐるので、その男には氣が附かないらしい。
興四郎は丸太町の角の、武家屋敷に沿つて左へ廻つた。今まで落付いてうどんを喰つてゐた例の岡ッ引は驚いた。そして傍の町家の軒へぴつたり寄せて、じつと窺つてゐる。その目はまるで獲物を狙ふ獵人の目だつた。
興四郎の姿は、丸太町を左へ曲つた二つ目の露路へ隠れた。
例の岡ッ引は見遁すまいと焦せる。角の醤油屋の土塀に添つて鼠のやうに道を曲つた刹那。岡ッ引はぎよつとして立すくんだ。
と言ふのは、その角に興四郎が隠れてゐて、岡ッ引の來るのを待つてゐたからだ。
ひやりと頬を冷やして、鳥のやうにぱッと跳け出さうと伸びた背を、追ひざまに、暗闇の中に蹲る蛇。
『あッ！』
と叫んだかと思ふと、男の體は朽木の様に路に倒れた。
やゝ暫らく手足を藻掻いてゐたが、その儘石のやうに靜かになつた。倒れた刹那に懐中から飛び出した捕縄の十手は冷たく星明りに光つてゐた。
興四郎は切先を地に垂れて男の様子をぢつと見詰てゐたが、何思つたか、その十手を足の爪先で轉がして死體の脇の下に隠れるやうにしてから、身をかがめると、死人の裾で静かに刀身を拭つて鞘に納めた。
——闇の中に、化石のやうに吃然と興四郎は立つてゐた。
『うどーん鍋焼ーき……』
うどん屋は遠くの方へ行つてしまつたと見え、その影が微に聞えて來る。
森閑とした夜の街、雨後の路へ雪駄を刻む。
この時闇を破つて、
『御用！興四郎御用だ！』
興四郎は立ち止つて、闇を透かした。此處の店先、彼處の露路にと夥しく人影があつた。
はら〳〵と興四郎を取囲んだ。その背後から御用提灯が蠢いてゐる。
提灯の明りに、十手は早瀬を上る鮎のやうに並んでゐた。
『うゝむ、——押寄せたな？蛆虫共』
興四郎の眼は、八方に飛んだ。やをら羽織の紐に手が掛つた。
その儘、一歩二歩前へ出た。それに連れて岡ッ引共は退込む。
『えい』
呼吸を計つた気合が鋭いたかと思ふと、羽織は遥か彼方の後方へけし飛んで、正面に向つてゐた岡ッ引は、胴を深く斬り込まれて倒れてゐた。これは興四郎得意の疋田流の居合斬りだつた。

五月十八日　舊四月廿四日
木曜　甲申　先負　平　奎宿

●一白の人　何事も先走らず長者の後より行けば引立らる乙ヽ丙、亥が吉
●二黒の人　氣の落付かざる日人の誘ひに乗るは尤危険辛さ亥さ丑が吉
●三碧の人　突風の中を飛行する如き日油斷する事勿れ乙ヽ丙さ申が吉
●四緑の人　古き世話事より縺れを生じ來る日萬事注意甲さ丙さ申が吉
●五黄の人　運氣小穏なり但し新規の商事は見合すべし辛さ亥さ丑が吉
●六白の人　氣移りの仕安き日新しき事に企てぬが安全丁さ庚さ亥が吉
●七赤の人　出ること少くして入る事の多き大吉日なり丙さ戊さ癸が吉
●八白の人　慶事を行ふには尤も吉き日旅行建築亦良好庚さ辛さ戌が吉
●九紫の人　依頼心を去りて自主の氣を專らさすべき日卯さ巳ヽ亥が吉

新京日日新聞

定價 一ヶ月 金八十錢 郵稅 … 發行所 新京日日新聞社 新京永樂町四丁目一番地 電話三〇〇〇・二二三五番 發行人 十河 … 編輯人 松本 … 印刷人 谷 …

五、一五事件の眞相 續報

使用の爆藥物は三上が上海で入手

大庭、黑岩らと頻りに活躍

〔佐世保電話〕佐世保に於ける五、一五事件關係者の策動は血盟團首井上日昭が同志獲得のため昭和五年五月來保したに端を發してゐるが當時井上は後日上海事件で戰死して勇名を馳せた藤井齋海軍少佐を通じ三上中尉、古賀少尉、大庭少尉と

=會談= したが井上は三上中尉だけは大事を打開けてもやり遂げると信用し同志獲得を依賴し三上は賴まれる儘に活動してゐた矢先同七年一月二十九日上海事件が勃發して出動したのでその參謀格であつた當時軍令部出仕課勤務海軍大尉塚野道雄氏が一切の切盛りをなした、一方出征して上海陸戰隊の第三大隊參謀をつとめてゐた三上中尉は戰時に調製せる爆藥物を秘かに入手

當時の通信艦たる第二十六驅逐隊檢乘組大庭春雄に手交し、大庭は該爆藥物をトランクに詰め込み恰も荷物の如く裝ひ數回にわたり佐世保に運んで

=陸揚= し同志市內熊野町の塚野宅において豫備少尉黑岩勇の手に渡し黑岩はこれを東京の中央に數回にわたり携行し併せて中央と聯絡をとつてゐた、かくして四月中旬に至り鈴木大尉、古賀少尉、大庭少尉等が凱旋し中央の情報をつかみ實行運動を協議してゐたが五月上旬前記黑岩が中央より歸り愈々決行するとの話を聞いて一同は同志黑岩が武器購入費として中央より持參した三百圓を以て酒宴を開き殘額は分配し機の熟するを待つ內中央より「五月十日決行する一同上京せよ」との通知があつたが

=當時= 鹿兒島方面で調達の武器が手に入らぬので塚野大尉はかかる計畫は餘程愼重な態度をとらねばならぬ、一度失敗しても二度三度目的達成まで繼續的に行はねばならぬと自重しそれに對し大庭、黑岩は急進論を說き意見の齟齬を來してゐたが、そのうち黑岩は先づ上京し大庭も中央の機熟するといふので五月十三日武裝を整へ時機の到來を待つてゐたが間に合はず十五日に中央で決行された事に依り發覺し逮捕されたものであるが押收された文書中には塚野大尉外前記八名の血判狀等も發見されてゐた

陸海軍人が揃つて憲兵隊に自首

一同極めて嚴肅な態度で 各分隊に留置取調べ

政友會本部を襲擊して警視廳の前で古賀海軍中尉の率ゐる第二班と合した中村海軍中尉の指揮する第三班の合計九名は午後六時十分一方首相官邸、日本

=銀行= を襲つた第一班三上海軍中尉の指揮するA組、並に山岸海軍中尉の指揮するB組九名は午後六時十八分何れも兇器に乘廻した自動車で麴町區大手町の東京憲兵隊麴町分隊に自首して出た、東京憲兵隊では灘波隊長以下緊急協議の結果、麴町、赤坂、牛込、澁谷の管下各分隊に分割留置し、當時の灘波東京隊長が總指揮の下に村野特高課長、和田同係長、麴町分隊長加藤少佐以下各分隊長が銳意取調べを進め、十八日午前海軍に屬する六名は海軍々法會議に、陸軍に屬する士官候補生後藤映範以下十名は陸軍々法會議に各々

=一件= 書類と共に身柄を送致したものであるが、當局の取調べに對し一同は極めて嚴肅に、上長官の出入に對しては直立不動の姿勢で敬禮を忘れず、帝國軍人の態度で終始し秦憲兵司令官も「罪は罪として憎むべきであるが、自首後の一擧一動は靑年將校として實に堂々たる態度で、一點非難するところは無かつた」と語りいたく感激してゐた

共犯關係の六名も檢擧す

佐世保軍法會議で

〔佐世保電話〕五、一五事件突發と共に佐世保海軍軍法會議では憲兵隊と協力して五、一五事件と重大なる關係を持つ軍艦足柄乘組海軍大尉鈴木四郎(二八)第二十六

=驅逐= 隊驅逐艦乘組海軍少尉大庭春雄(二五)佐世保海兵團分隊士海軍中尉林正義(二八)第三戰隊出雲乘組海軍少尉古賀忠一(二六)の四名を檢擧續いて廿四日には佐世保市上矢岳町の海軍官舍を襲つて軍需部庶務課勤務海軍大尉塚野道雄(二五)を逮捕すると共に家宅搜査の結果上海から密輸した拳銃二挺及び同志との連絡をとつた秘密文書數通を押收して引上げ、更に同年六月十三日上海事件で佐世保軍港に凱旋した第三艦隊旗艦出雲

=乘組= 海軍大尉田崎元武元を凱旋早々逮捕し六名を海軍刑務所に監禁してゐたが海軍關係の審理の都合で橫須賀海軍々法會議に移送されたものである

滿洲に行くとて上京する

大貫明幹等の申出によれば五月一日 城縣東茨城郡常磐村愛鄕塾にて指導者林正三は大貫以下五名に對し滿洲に連れて行つてやると騙し當分の小使として三十圓宛をくれた、同夜青山青年館に泊つたところ同夜午後十時頃後藤國彦一人が後に慕つて上京した、翌二日の朝後藤は洗面所に大貫を呼び實は滿洲行は僞はりで來る五月十五日午後七時を期し軍部が四ヶ所を襲擊するにつき之が援助の意味に於て變電所を襲擊して東京を混亂に陷らしめる事をやるが之が決行後は前記新井村に身を寄せ人夫か何かして居ればよい、その點は豫め話が出來て居ると告げ十五日迄は各自市內の木賃宿に自由に宿泊する事を申渡された、而して之が連絡係を矢吹省三と定め矢吹の外は一切相互の住所を秘密とした、大貫は小池力也と共に同日靑年館を出で深川區富川町木賃宿三河屋に止宿し五月十二、三日頃同所屋號不明の木賃宿に轉じ十五日は早朝宿を出で上野公園其の他に遊び午後六時上野驛から省線で日暮里驛に至り同驛にて京成電車に乘じ尾久變電所に向つたものである

決行に先ち十四日午後六時頃木賃宿にて手榴彈一個を矢吹より受取り當日ゴム手袋、電線切鋏及金槌を買ひ求め變電所「スヰッチ」附近に手榴彈を投じたが爆發せず依つて所持の金槌でスヰッチを破壞せんとしたが不成功に了り、兇器を遺棄して附近より自轉車で逃亡上野で市電車に乘り前記新村方に逃亡したものである

陸軍側被告を指揮した池松

計畫を明かさず集合

五・一五事件に關係した陸軍側被告は步兵第四十九聯隊付陸軍士官學校生徒後藤映範(二五)外全部で十一名で悉く士官學校生徒であつたが、これら十一名は五月十五日夜の行動隊に參加せしめて首相官邸、內大臣官邸、政友會本部、警視廳並びに日本銀行を襲擊せしめたのは常人側被告の中に加へられて爆發物取締罰則違反並びに殺人罪により有罪の決定を與へられた士官學校中途退學者池松武志(二四)で同人は豫め十五日夜の襲擊計畫を知らさず「規定の時間迄に靖國神社、泉岳寺、新橋驛前の三個所に別れて集合すべし」と云ふ指令を出したところ十一名中の大部分は十五日夜における海軍側將校の指揮に從ひ行動を共にしたものである

常人側行動隊も

變電所、銀行を襲擊 西田中尉殺害

五月十五日夜に於ける軍人側襲擊の行動は前記の如くであるが常夜常人側行動隊と相呼應して東京市內及び近郊の變電所及び三菱銀行襲擊、陸軍豫備中尉西田稅殺害等を決行した、その事實の概要は左の如くである

變電所襲擊

愛鄕塾橘孝三郎は五月十五日夜を期して東京市內及びその近郊に電力を供給する主要なる變電所を破壞し、以て帝都の暗黑化をはかりその治安を一時的混亂に陷らしめ軍人側行動隊の目的遂行を援助せん事を決意し義弟林正三、高弟後藤國彦、秘書春田信義、連絡係り杉浦孝等をしてその計畫を立てしめ東電淀橋變電所外五ケ所の變電所を襲擊せしめた變電所及びその被害狀況等は左の如くである

△東電淀橋變電所 溫水秀則が擔當、午後七時四十分頃手榴彈一個を冷却裝置に投擲炸裂せしめ冷却塔の下方を破裂す

△同田端變電所 五百枝が擔當、午後七時十分頃變電所建物を目がけて手榴彈一個投擲したが不發に終つた爲め附近の川に投じた

△同龜戶變電所 矢吹省吾が擔當、午後八時頃手榴彈一個を投擲したるも不發に終りハンマーにて冷却用ポンプ及び室內スヰッチを切斷して送電一時停止せしむ

△同自白變電所 小室力也が擔當、午後七時頃手榴彈一個を携帶して襲擊したるも警戒嚴重なりし爲、目的を遂げず逮捕さる

△同鳩ケ谷變電所 橫須賀喜久雄が擔當、午後七時半頃手榴彈を投擲炸裂せしめ抵抗器冷却用ポンプ、室內スヰッチ、水壓器の一部を破壞す

△鬼怒電東京變電所 大貫明幹、高根澤與一が擔當、手榴彈一個を投擲し、ポンプ及び室內配電スヰッチを破壞す

△三菱銀行襲擊 常人側行動隊員中の明大生奥田秀夫は五月十五日午後七時頃手榴彈二個を携帶して麴町區丸の內二丁目三番地三菱銀行本店に到り內一個を投擲炸裂せしめて窓硝子十餘枚を破損せしめた

△西田中尉殺害計畫 本件被告等は前掲の如く暗殺並びに襲擊計畫を實行したが橘孝三郎並びに古賀淸志外陸海軍少壯士官と共に從來の同志にして豫てより前記襲擊計畫を聞知したる陸軍豫備中尉西田稅が態度を一變し襲擊計畫遂行の妨害をなし居るものなりとの疑念を抱くに至り計畫實行と同時に同人を葬り去るに非れば將目的を貫徹するに於て支障を來す虞れありとなし被告橘、後藤、林、堀川、照沼、黑澤等は、同年四月中頃同人を殺害せんと謀議した結果被告川崎長光をしてこれを決行せしむることとし同人に對して實行方を依賴した前記依賴を承諾した川崎は、同年五月十五日午後七時頃舊東京市外代々幡町代々木山谷百四十四番地の西田稅方に赴き拳銃を發射して右側肩胛部等に重傷を負はしめたが死亡に到らず目的を遂げざりしものである

永久の思ひ出

この一ケ年を顧みて 大役を果して 木內檢事語る

血盟團事件に引續き五、一五事件と非常時事件の主任として立派に大役をなし遂げた東京地方檢事局檢事木內曾益氏は謙遜しながら語る

要するに本件犯行被告等の衷情は純眞として大いに考へさせられる點が多々あるが而し法は曲げられない、從つて

=檢擧= に對しては何處までも斷乎たる考へをもつてのぞんだものである、この取調べに一年を要した事は一見まことに長くかゝつた如く見えるが實際は事件が複雜であつて寧ろ一年位でやり遂げた事は奇蹟であつてこれは一重に宮城檢事正、棚町前次席(遞外法官)の熱心な指揮と補助の市島(成一)佐野(茂樹)岸本(義廣)三檢事の懸命の努力と警視廳搜査課全員あげて奮鬪の賜である、尙豫審の方も主任の大野(正太郎)中黑(嗣)並に榎林(八十八)小幡(儉)の四

=豫審= 判事が懸命に努力された事は吾々檢察官として感謝に堪へないところだ、殊に榎林判事の如きはこの事件中病氣のため中途手を引かねばならなくなつた事は眞に同情に堪へぬ、事件については幾多の思ひ出はあるが最も感銘の深いのは古賀中尉に橫須賀刑務所であつた時だそれは井上日昭が檢事局に自首した一周年に相當する三月十一日であつたが、其時古賀中尉は自分に對し「あなたは思ひ出深い人だこれが最後となると思ふとさびしい、決して自分は

=死を= 厭ふものではないが假りに命があつたら是非お眼にかかりたい」と淚ぐんで別れを惜んだのが今考へても永久の思ひ出である

塾頭橘孝三郎の自首

帝都襲擊農民決死隊の首領愛鄕塾頭橘孝三郎(四〇)は事件發生後滿洲に逃げて某方面の某關係者の許に身を寄せ保護を受けてゐたが警察當局の追窮甚だしくして身邊の危急が迫つた爲遂にハルビンに逃げ込んだ、警察當局にては更に之を追ふてハルビンに迫つたので某關係者も之を保護しおほせず、遂に橘は七月廿四日を以てハルビン憲兵隊島隊長の下に自首し出た、之で五、一五事件に關係ある農民決死隊員の全部は捕縛せられたのである

滿洲に行くとて 水戸を出發

ハルビンで自首した橘孝三郎は五、一五事件の前に滿洲に旅行すると稱して之が爲〇〇

〇九日には水戸市內常磐館食堂に代議士風見章元代議士菊池謙二郎、現兵庫縣內務部長にして當時の茨城縣內務部長湯澤久氏外卅餘名を招待して思想問題を鬪はしたが、その時彼は極右思想を以て激越なる論を吐き來會者を驚かしたものである、斯くて五月十日の午後三時廿九分には秘書春田信義(二六)を伴ひて水戸市外赤塚驛より出發し滿洲へ赴くと稱して、多數の塾生、家族、友人知己等の見送りを受けた、而も彼は此時既に五一五事件に關する一切の陰謀計畫を胸裡に包藏して居たのであり、滿洲へは行かずして東京に下車し、同日五時半上野驛に着し副塾頭後藤國彦(三一)外數名の同志により迎へられ作戰本部として充てられた青山靑年會館に落附き此處にて、五、一五事件に關する諸種陰謀につき五、一五事件に關聯せる陸海軍々人と打合せを遂げたが、之が打合せ成立と共に五、一五事件の首魁海軍中尉三上卓から襲擊用爆彈六個と短刀五振を受取つたのである、橘は五月十五日午後三時に靑年館三二號室に實行に携はる塾生一同を招集し、襲擊すべき變電所及之が方法を指示したる後犯行決行後には滿洲へ逃走し來るべき事、その方法及旅費等を與へた

橘は之れ迄一切の準備が完了したから成功疑ひなしとし、同夜は一同と共に會食し橘は翌十一日午後九時四十五分東京驛發列車で秘書春田信義と共に滿洲に潛入したのである

尙橘は入滿後其知己である滿洲市政局研究所長 田氏を訪問し身の振り方を相談すると共に五、一五事件犯行後滿洲國へ落延び來る塾生を全部ここに收容せんと試みたものであつた

橘と日昭、古賀中尉の三角血盟關係

行動隊長は後藤國彦

〔東京十〇日發電通〕農民決死隊の首領橘孝三郎は、井上日召元被相及團琢磨暗殺の敎唆者として檢擧されて居る井上日召と護國堂に立籠つて居た頃より深き親交あり、お互に國事を論じ、而して其の思想が互に共鳴するに至つた日召は最も橘を信じ、此の男ならば語るに足るとし、盟友たる五、一五事件の立役者古賀中尉を紹介し、之よりして、橘と日召と古賀中尉との間に三角血盟の成立するあり、漸次關係は深刻となり、昭和六年十月事件にも橘は關係を有して居たと傳へられた

橘と日召との關係此の如くであるから、自然日召と親交のあつた權藤成卿氏も親交あり生中には權藤氏の紹介で入したものがある程である

橘の極右思想は、本年二月頃に於て、最も高潮に達し、其の結果 城縣下土浦町の料亭山水閣にて、海軍中尉古賀淸志と相台して、五、一五事件に關する具体的の相談をなすに至つた、變壓所襲擊隊員に對しては行動隊なる名稱を與ふる事、襲擊材料は、古賀中尉が之を引受くる事、襲擊決行後は、滿洲に逃亡する事等を談合したもので、五、一五事件海軍軍人側との聯絡は古賀中尉が之をなしたものである

本件の被告人となつて居る林正三は、橘の義弟に當り、橘腹心の一人であつた、よつて橘は滿洲に向け出發するに當り、林をし、水戸を去るに方り林をして、愛鄕塾の監督を命じ、橘は離 後も林との間に諸種暗密の打合せをなして居た、而して五、一五事件當日は林はわざと直接の行動に携はらずその跡始末に任ずる事となり後藤國彦が行動隊長に任命されて一切の直接行動を指圖したのである

塾頭の秘書

春田と塾生

橘塾頭の秘書春田信義(二六)は、 城縣笠間町西野米の二男に生れ、柔道初段の腕前でかつて、縣靑年大會等に於て大いに活躍したもの朝鮮羅南の第七十五聯隊を除隊後、自宅に在つて、大工を營んでゐたが、昨年春同志塙の實家の仕事に賴まれて行つて居る中五百枝の話を聞き、同樣二男ではあり何時まで家に居ても仕方がないから、滿洲へでも行つて牧場經營でもして見たいものだと塙の紹介で愛鄕塾に入り 在つて修養中 頭に見込まれ、その秘書として諸種重大計畫に參劃して居た、今次の上海事變には、豫備役一等兵として水戸二聯隊に應召、去る三月第二次歸還部隊と共に凱旋、その後は自宅に靜養してゐたが、事實上本體をなす村上、山岸(上海事變出征)

[illegible]勤務も日歡、愛鄕塾より呼びが來たので、近く滿洲へ行くと稱して水戸へ出掛け、一五一五變電所襲擊事件に參畫したものである

又塙五百枝(二二)は、 城縣笠間町醫師塙米の五男で昨年四月水戸中學を卒業後、滿洲へ渡つて大農園經營を志し之が農法修得の爲、同年六月愛鄕塾に入り專ら指導を受けてゐたものである

大川博士と五・一五事件との關係

大川周明 ― 資金―武器 七、〇〇〇 拳銃五―實彈三〇〇 ― 古賀

古賀 ― 一武器護匠一 山岸(上海事變出征) 村上 池松 ／ 中村 明大生 奥出 ／ 國(愛鄕塾) ／ 頭―秀三(本間) 大行會 兒玉譽志男(獨立青年社) ／ 林正三 後藤 武器關係 農民決死隊

大川周明博士は古くより右翼團体の大物であり彼の筆と辯舌とは右翼青年に多數の渴仰者を有して居た、而して大川周明博士と古賀中尉の間には默契裡に盟約があつた

そこへ上海事件より歸國した村上、山岸等の尖銳分子に拍車をかけられ遂に決行を急ぐ事となつた、古賀は人員の關係上井上日昭の紹介で知り合つた頭山秀三氏を尋ね一切を打明けた處、秀三氏は直ちに之を快諾した、依つて古賀中尉は 方面をまとめる事を約し秀三氏は一般青年學生の方をまとめる事を引受けた、斯くて古賀中尉、橘孝三郎氏と會見し、日昭の遺志を繼ぐ事を約し準備の全く完成したのは決行前半月に滿たざる頃であつた、尙ほ大川博士は五一五事件の決行については相當深入りをして居たものらしく、其計畫には大川博士直接關與したもので古賀中尉、橘孝三郎の兩名が大川博士宅で屢々密議を凝した、そして最初には古賀中尉は犬養首相を狙ひ、村上、山岸等は牧野內府を狙ふ事になつたのであるが五月二日の會見に於て大川博士自身の提案によつて古賀中尉を一班として牧野內府を村上、山岸等を同班として犬養首相を狙はせる事に變更したものである。大川周明博士は自分に心服して居る古賀中尉に於て國家改造を決行するための資金として金三千圓を古賀中尉に渡し更に四月十日、四月十五日、五月一日の三回に亘り、七千圓資金と拳銃五挺實彈三百發を手交した。古賀中尉は事件決行まで之を池末に渡し、池末は之を岩淵町の自宅に隱匿した。而して事件決行直前之を林正三に手交し、林は同人の實兄牛込區東五軒町三十五林正一方で決行二日前の五月十三日に後藤に手交し、後藤の手から之を同志に分配したものである。

本事件の特異性

五・一五事件は要するに我國現下に於ける政黨の腐敗墮落特權階級及び財政の橫暴を叫けんでこれを矯正せんがため[illegible]行動に出たものであるが如何なる方法によつて政治を改善しやうと云ふやうな具体的に考へは持たなかつた、[illegible]るまた被告等は庶民階級殊に農民の救濟解放をも叫んで居り一種の無產運動の現はれとも見ることが出來るが左翼の解放運動と違つて皇室中心主義を高唱してゐる、以上の二點が本件の特異性である

熱淚の思出

難波憲兵隊長語る

五、一五事件當時の東京憲兵隊長であつた現大阪憲兵隊長難波少將は語る

事件後早くも一ケ年を經過し當時を追懷することは誠に斷愧に堪へない次第である、當時の狀況に就き詳細を語る事は此際愼しみ度い[illegible]、直接自分の取調べたある被告の如き自分の顏を見るや、男泣きに泣き伏し自分の手を握つて暫くは言葉もなかつた面上に溢るる熱淚には思はず自分も目頭があつくなつた程だ、若氣の至り、國を憂ふの熱情に燃えて徒らに市井の無賴の徒輩にも劣る直接行動に出たことは返へすがへすも遺憾とする

平賀部隊 南山に肉迫す

〔山海關十七日山根特派員發〕平賀部隊の一部は開平南方南山に肉迫、目下激戰中、今明日中に南山占領の見込

新京風景

その顏…顏…顏
一喜一憂こもごも
きのふ待望の電話の抽籤に押寄せた人の波

今日かくと鶴首してゐた寄附電話の抽籤決定は今日十七日午前十時から祝町太子堂に於て警察官、各新聞、通信記者等多數立會の下に嚴密に擧行されたが、

＝我家＝の申込如何にと氣遣ひ顏に馳せ參じた者五百名を突破した、定刻先づ市川局長より抽籤に關する詳細の說明があり、終つて立會人によつて抽籤器の細密なる檢査を行ひ直に抽籤に移つたが、廻轉式の抽籤器より一回毎に現はれる當選番號に波打つ人々は一憂一喜の色を面に現はしてゐた、申込受理總數一千百四十四個で其の內嚴重なる調査の結果種々の事故の爲に抽籤權を解除された者四百二十一個でのこりの七百二十三個の

＝抽籤＝を行つたが電話機五百個の內優先權のあるのが十九個、豫備十個、一般民衆に充當する分が二百三十一個で總計二百六十個他は軍部滿洲國側に振當てる事となつてゐる、なほ通知に接した當選者の架設申込あり次第順次に工事に着手する豫定である

米國を魁に滿洲國市場へ
最近列國頻に進出

世界不況打開に關し、これが解決の鍵として殘されたる世界的問題は一つに東洋市場の開拓にあるが、この事業につき最近列國は漸く強き認識を東洋に注ぐに至つた、即ち本年度一月より四月に至るまで列國が滿洲國に輸出した總額について見るに米國の進出は特に顯著なるも同期間に於る輸入總額は日支に次いで約九百萬圓を突破するに至つた、而してこの狀勢を以てせば米國はやがて支那をも驅逐するものと豫想され、異常に注目されてゐる

音樂教材の歌詞懸賞募集
滿洲國文教部で

[illegible]…へくさ歌詞を廣く一般から懸賞募集をなすこととなつたが文教部では左記要領に從つて振つて應募せられたいと云つて居る

懸賞募集歌詞

一、目的　小學校及中學校等の音樂教材に充つ

二、種目　1內容（甲）滿洲建國を頌へたるもの（乙）滿洲國土の善美を贊揚したもの（丙）國民意識を鞏化し青年の志氣を鼓舞するもの（丁）友邦の親仁、善隣の美意を感謝したるもの（戊）篤興愛校を勸める者　2程度　甲、尋常（初級）一二學年程度に用ふるもの乙、同三四學年程度に用ふるもの丙、高等小學及中學程度の用ふるもの丁、各種學校に適用するもの（內容及程度は適宜）

三、應募者の資格制限なし　四、用語滿洲國語　五、日限　大同二年六月三十日　六、應募方法　甲、創作に限り、抄窃なること…當選後と雖…　乙、數人の合作及一人にて數篇提出するは差支なし　丙、原稿には題目のみを記入し著者の姓名住所とは別紙に誌して附すること　丁、原稿は文教部學務司普通教育歌詞募集係に提出すること

七、選擇法及等級　文教部より委員若干名を擧げて嚴正に審査す

等級　一等五篇各褒狀及獎金五十元を贈與す　選外佳作若干各褒狀及獎金二十元を與ふ

中東々部線時刻變更

十五日より中東全線に亘り列車運轉時刻の改正を行つたが中東々部線は更に次の如く時刻が變更された

▲第四列車（日、火、木運轉）　ハルビン發　午前六時五分　横道河子着午後七時五十分　横道河子發午前三時廿五分　綏芬河着　午後七時四十分

▲第三列車（日、水、金運轉）　綏芬河發　午前三時　横道河子着午後七時二十分　横道河子發午前三時三十分　ハルビン着午後　五時五分

▲第二十二列車（月、水、金、土運轉）　ハルビン發午後二時三十分　一面坡着午後　八時三十分

▲第三十一列車（日、火、水、金運轉）　一面坡發午前二時五十五分　ハルビン着午前八時五十分

滿洲化學工業重役

〔東京十七日發國通〕滿洲化學工業會社は三十日創立總會を開催するが、重役顏觸れは左の通り內定した

取締役會長　斯波忠三郎

常務取締

滿洲計畫業務課長　右近又雄

滿鐵技師　深水壽

近頃甚しい官廳用自動車の交通道德無視
三運轉手揃つてお目玉頂戴
今後は容赦をせぬ

最近著しく激增した市中の自動車は物凄いもので交通の輻輳に伴つて種々の交通事故續發の折柄新京署保安係では全係員をあげてこれが

＝防止＝に奔走中十六日午後九時三十分頃市內吉野町料亭八千代館前の細路傍に停車し交通道德を無視して交通の妨害をなし得々としてゐた自動車二千四十五號（國務院）二千一號（參議府）十七號（地方事務所）の三台があつたので保安係では早速十七日午後から運轉手を呼出して訓戒を與へたが、近頃かくの如く官廳用自動車が民衆自動車よりも遙かに多く當局の指旨を無視してゐる

＝傾向＝が濃厚に現れて來たので今後の違反者は遠慮なくどしどし處罰する意嚮である

立退を迫る露人へはお灸
却て暴利法で處分

附屬地日本橋十四番地吳服雜貨商カラピチヤン（五三）はパピ（四〇）なる白系露人をハルビンより甘言を以て招き寄せ、自店の四分ノ一程度の一間を月百七十圓で昨年八月頃に貸したが、パピも最初の數ケ月の賃料は支拂つたが、不況のため本年一月頃よりの支拂は出來ないのを理由としカラピチヤンはパピの店の商品、價格一萬四千圓程度を差押へパピに立退を迫つて居たものを十六日探知され、兩人共警察に出頭を命ぜられ嚴重取調べを受けたがカラピチヤンは暴利取締法違反として處分されることになる模樣である

四平街便り

林隊長榮轉
惜別の招宴

前任四平街憲兵分隊長林淸氏は關東軍司令部附に轉補をみ現職の儘熱河省公署並に熱河警備司令部顧問に榮轉不日離四赴任の途に就くこととなつたので十六日午後六時三十分から料亭松屋に在住官民有志や招き惜別の盛宴を張つた、宴に先ち林氏の挨拶、川添市民協會長これに答ふる處あつて開宴主客十二分に歡談午後九時過ぎ散會した

新憲兵隊長就任

新任四平街憲兵分遣隊長出中恒男氏は肥田伍長の案內で十五日市內日滿名機關を歷訪就任挨拶した

飯島前署長挨拶

這回勇退した前任四平街警察署長警視飯島慶藏氏は告別の爲め十六日市內重なる向を歷訪したが、離京は十八日午後六時五十分の豫定で當分旅順市に滯在すると

海軍記念碑移轉奉告祭
きのふ嚴かに執行

西公園內の海軍記念碑は關東軍司令部廳舍を新築され市塵が及ぶので移轉に決し四月十三日關東軍經理部から請負人に工事を命じ爾來月余全く移轉を終つたので十七日午前十一時碑前で嚴肅な奉告祭が行はれた、定刻井上神官以下奉仕祓式降神式獻饌祝詞奏があり神官海軍代表、經理部代表、海友會代表來賓代表、請負人が玉串を捧げ終つて撤饌、昇神式を行ひ經理部首の工事報告があつて記念撮影神酒を頒つて一時近くに散會した

奧樣方へ御注意
上水煮沸の事

新京の水道は水量が充分でないため時々行ふ鐵管洗滌が完全に行き屆かずどうかすると混濁することがある無害ではあるがこれから夏期に入るから爲念當事の間は煮沸して食用に供するが安全だらうと

司法制度を視察して
お土産は澤山
刑務所の工場制其他
◇阿比留司長は語る

一ケ月間東京を振り出しに內地各地の司法制度視察の傍ら司法官の招聘にあたつてゐた滿洲國司法部の阿比留總務司長は十四日午後歸京したが同司長は

＝往訪＝の記者に大要次の如き談話を試みた

今回の旅行は非常に愉快だつた、日本各方面の人は非常に滿洲國に關心を持ち且つ正しい認識の下に熱心に滿洲國の實狀に關し質問され、あくまで滿洲國を援助する事を言明された殊に前回の滿司法部總長の內地視察の時に頗る好印象を殘して來たので仕事がやりよかつた、招聘の司法官は判事二名檢事三名と決つた滿洲國赴任

＝希望＝者はなかなか多い樣であつたがまだ人撰は定まつてゐない東京の司法官會議に五日間出席し最終日に出席諸君の希望により滿洲司法狀況の赤裸々なる過去現在將來に關し詳細に說明したが非常に滿足された樣であつた、名古屋、大阪廣島、長崎の各控訴院刑務所等を視察したところ到る所で充分な資料の提供と凡ゆる便宜を與へて下された事に對しては感謝の外はない

＝御英＝明のお噂さ高い東久邇宮殿下に四十分間に亘り滿洲の司法制度の御話を申上げる機會を得た事は身に余る光榮と喜んでゐる、今回の視察で特に感じた事は司法官の身分保證、即ち行政官と嚴然と隔離し何等の干涉を受けず公正中立の立場の下に處斷して行く事と司法憲法である法院編制法の制定である、又豫算の許す限り刑務所を改革する事が

＝必要＝である現在滿洲國では獄政訓練所を設け獄吏の訓練に當つてゐるが刑務所を工場制にしたいと思つてゐる

五一五事件　その家庭を訪ふて
涙に暮れる近親者の話

貧困に泣く本間塾頭の家
子息が納豆賣りを志願

〔土浦電話〕五・一五事件の中心人物本間憲一郎（四四）の經營してゐた茨城縣新治郡眞鍋町の紫山塾は農村の中堅青年を養成する目的の下に昭和四年三月頭山滿、內田良平等諸名士三十餘名出席の上盛大な塾開きをなし當時各方面から、

＝注目＝を惹いたもので、開塾當初は二十名の塾生があり本間塾頭が事に教養に當つてゐたが設備に不完全から三ケ月も出でずして塾生は半減し本間塾頭が昨年五月一日支那視察の途に上つた頃には一人の塾生もなかつた

本間が事件の中心人物として檢擧されてから內には夫人うめ子（三二）さん長男眞鍋小學校三年八郎（一一）君、長女同校一年生光子（七）さんそれに塾頭から留守中を特に依賴された片見勝治（五二）さんの四人暮しで事件以來

＝官憲＝の警戒嚴重な爲め人が寄附かぬ樣になつてからは生計は益々困窮し電話も止められ手も足も出ぬ貧乏振りに義兄の土浦町御官中條勝雄（四二）同健雄（三九）の兩名が見るに見兼ねて今日迄世話して來た堂々とした塾の建物、庭園に比し哀れなものがある、塾頭の二愛兒も生計の困難を知り納豆賣りでもしやうかと母に屢々相談したといふことである、うめ子夫人は語る

何しろ昨年五月一日突然一寸支那へ行つて來るからと云つて出た儘あんな事になつてしまつたのです、子煩惱の性質ですから獄中からも手紙をよこしましたが

＝子供＝は丈夫か暮しは定めし苦しいだらうが辛抱してくれ、餘程困れば子供に納豆賣りをさせてもよいなどと云つて來ます、主人がどんな事をしたか私等には何一つ話して呉れませんので一向判りませんが只一日も早く保釋を許される日を樂しみに待つてゐます

又留守居役の片見氏は語る　本間さんは眞の志士です國を思ふ念の強いことは一昨年の暮二男の日出夫（二）さんが腸を患つて今にも息を引取らうとして居たとき突然東京から電報が來たので「國家の

＝大事＝だ、子供のことなどかまつて居れない」と齒の息の愛兒を振り捨てゝ上京したことでも分ります、其ためにとうとう日出夫さんの死目に逢はれませんでした　世間では同志から扶助料位送つてくると思つてゐる樣ですが只一人もそんな心配をしてくれる者はありません、この先どうして暮したらよいやら途方に暮れて居ます

肉親に遺書を送つて暇乞ひ
沈默家の石關候補生

〔山形電話〕五、一五事件陸軍側關係者石關榮（二四）は米澤市本五十騎町出身で父貞次は日淸、日露兩役に出征して勇名を馳せた人であるが一昨年五月十五日精神に異狀を來して自殺した、母スギ（五九）は事件後東京市杉並區高圓寺に移住した、榮は四人兄弟の三人目で小學校時代から成績非常によく級の首席を占め米澤中學校在學中も頭腦明晰で同窓から畏敬されて居た、然し性質は至つて憂鬱默り屋で運動を嫌ひ常に讀書ばかりに耽つて友人から變人扱にされて居た、石關は昨年五月十五日大事決行の二時間前左の如き遺書を母と兄弟宛に郵送し其の決意の堅き事を告げ生前の暇乞をして居る

遺書（原文）

卒業に近づきました、此の時御嘆きをかけて申し譯はありませんしかし此の度の事變により自分等と同じ位の若い兵隊が數百名死にました、これ人間の避けられない必然の運命とあきらめて下さい眞理の爲めには何物も捨てなければなりません、不孝な次第はお赦し下さい、本日は歸宅する筈でしたが流行性腦脊髓膜炎が出ましたので外出出來ませんでした　お逢者に皆樣御世話になりました

昭和七年五月十五日午後二時　榮より

母、繁次、保、滿樣

中島、金淸、坂本
三候補生生立ち

〔山口電話〕野戰重砲兵第四聯隊士官候補生中島忠秋（二五）は父千熊氏が日獨戰爭で名譽の戰死を遂げたので三人の弟妹と共に母の手一つで育てられた、事件發生時同人の成功を唯一の頼みとしてゐた老母つめ子自力は老いの身を忠秋の妹あさ子さんの許に寄せ悲しみの日を送つてゐる、尙忠秋の姉は京都大學在學中の許婚某が病死するや二夫に見えずとの觀念から殉死し郷黨に貞女の譽れが高い

□

〔山口電話〕士官候補生金淸豐（二三）は父政吉（四六）の長男で活潑剛放な性質であつた家族は父母の外五人の弟妹がありパン及酒釀造に從事してゐるが同家は事件以來謹愼の意を表してゐる

□

〔宮崎電話〕步兵第七十九聯隊（會寧）士官候補生坂本象一（二三）は宮崎縣西諸方郡飯野村大字原田二六で酒類乾物商を營む坂本勘藏（四九）の長男として生れ何不自由なく成長し縣立都城中學より熊本幼年學校に入つたが今回の事件に連座した西川武敏、金淸豐とは當時より三人組と云はれた程の親交があつた、性質は剛直にして感激家、實父勘藏氏を訪へば折角名譽ある軍人となりながらとんだ心得違ひをして呉れたもので申譯なく思つてゐると聲を呑んだ

阿片專賣の指定申込殺到
早くも六十一件

さきに新京署衛生係で受付を開始した附屬地內の阿片專賣の指定人申込は其後陸續として集まり十人の指定人に對して十七日現在では六十一件の多數に達したが、此處一兩日中に申込の受付を締切り本廳へ送附する筈である

怪しい男
果して曲者と判明

十五日午後三時頃市內二笠町演藝館前を通行中の二十歲前後の擧動不審の邦人あるを新京署司法係原田刑事が發見逮拘取調を行つた處、右は原籍福岡縣福岡市下名島町龜田修（二一）で豫てから友人である室町二丁目森野英雄（二六）の宅に厄介になつてゐる中、同人が新調した洋服價格六十圓並に同人の知人某の現金四十五圓を窃取、遊興に費消してゐる事を自白した

鐵道隊けふ來京
午後三時廿五分着
ぜひ送迎しませう

鐵道第〇〇隊將校以下〇〇〇名十八日午後三時二十五分ハルビンより來京同夜午後十時新京驛發內地へ歸還致します

徵兵檢査

八年度徵兵檢査は十四日安東大和小學校で擧行されたが、壯丁九十二名中（安東七二名鳳凰城二十名）一名も欠席者なく午前八時一同整列、檢査官世良大佐詔勅を奉讀後訓あり次で丹原一等軍醫、小林二等軍醫等檢査係官より檢査方法說明あつて直に檢査始、結果甲種三十三名、第一乙種十九名、第二乙種二十七、丙種十九名、丁種四名で花柳病は僅に一名の成績で午後六時十五分終了した

實業廳の肝煎で
滑石會社設立
原石爭奪紛爭を防ぐ

海城、蓋平附近に産出する滑石は毎年日本に平均四萬噸輸出せられて居り、又各種工場に缺く可らざるものとして重要視されてゐるが、滑石原鑛の爭奪は日と共に表面化し、紛糾が絶えぬのでこれが統一機關として、日滿合辦の滑石株式會社が實業廳の肝煎で近く設立されることゝなつた

滿人吳服屋にピストル强盜
白晝の出來ごと

十七日午後三時十分頃市內祝町五丁目十五番地滿人吳服商陳嗣隆方へ客を裝つた三十才前後の一名の滿人が入り來り家人の隙を窺つて所持せる小型拳銃を擬して家人を一室に押込め、机の抽出にあつた銀幣二百二十圓余を强奪の上電話線を切斷して何れかへ逃走し行衛をくらました、急報に接した新京署司法係では倉田主任を初め各刑事急行、現場の實地檢證を行ふと共に目下犯人嚴探中である

熱河の勇士
植村長良少佐戰死

〔建昌〕〔十六日發國通〕灤河渡河を爲さんとして戰死せるものの內に植村長良少佐がある、同少佐は志道部隊の先頭部隊として豐潤に向け進軍中十三日敵軍に

＝猛襲＝を爲し同日正午劉總旗營にて第一線を指揮中敵の迫擊砲彈の爲壯烈な戰死を遂げたものである、同少佐は三角地帶の匪賊討伐に於て赫々たる武勳を樹て熱河討伐には通遠、下窪を經て三月二日朝赤峰に一番乘をし其後圍場赤峰承德を經て雖ナ山に進軍し多倫方面に對し警備に任じてゐたが三月三十日同地を出發約三十日間に亘り惡路を踏破して四月九日灤承營子（冷口北方三里）に到着四月十日より冷口攻擊に參加し十日夜敵の主要陣地を夜襲して陷れ、翌朝建昌營の東に迂廻敵の退口を遮斷し北劉家口守備中には

＝敵の＝夜襲を擊退する等、數多の武勳を樹て灤東地區に於て高田部隊と協力作戰に參加し東寨庄に於て敵前渡河を爲し豐潤に向つて進擊第一線を指揮中惜むべし敵彈の爲護國の鬼と化したのである

人事往來

▲染谷保藏氏（盛京時報社長兼本社代表）十七日午後哈爾賓より歸京滿鐵屋旅館投宿十九日午前九時着で歸奉の豫定

▲黑正博士（京大教授）十六日午後七時五十分着來京富士屋旅館へ

大氣と氣溫

けふの天氣南西の風晴時々曇り十七日の氣溫最高二十九度六、最低十四度三

謹んで訂正

五月十七日朝刊室町小學校創立二十五周年記念の記事中「十八日は秩父宮殿下御成婚記念日」云々とあるは御成り記念の誤植につき謹んで訂正致します

公示

新京水道は水量充分ならざるため完全なる鐵管洗滌不能につき當分の間煮沸して飮用に供せられ度く右公示す

昭和八年五月十七日

新京地方事務所　荒木章

首都警察廳で銃火器所持者取調べ
全部で一萬五千百九十二名

首都警察廳保安科では昨年十二月一日より市内並に管下の卡倫萬寶山小合隆、双城堡、双龍臺各地警察署をして銃火器取調べの爲に銃火器所持者の屆出を奬勵し數回に亘つて各地に係員を派遣して之が督促に當つてゐるが、此程大体の屆出を終了した

市内には銃火器合計　八九二
卡倫警察署管内　一、三三三
萬寶山警察署管内　三、七六六
小合隆警察署管内　四、四一九
双城堡警察署管内　一、〇三三
双龍臺警察署管内　三九九
計　一五、一九二

此の厖大な數字の中で最も多いのは洋砲三三九四、モーゼル拳銃一、六九九、三八式步兵銃一、二四二點等で相當精巧なものも混つてゐる

尚今回の調査で銃火器所持者の臺帳も完成するので近く管下警察署、並に派出所に臺帳の寫を備付けて時々調査し嚴重取締る方針である

外客誘致に先づホテルを完備
全國各地に出現する大ホテル 低資融通案承任さる

〔東京十六日發國通〕「外客誘致には先づホテルの設備から」をモツトーに國際觀光局では從來の懸案だつた滋賀縣のグランドレーキホテルへ四十萬圓、長野縣の上高地ホテルへ二十九萬圓、大阪市の新大阪ホテルへ六十萬圓の低利資金を融通する案が大藏省で承認され、愈々竣工に邁進する事となつた、グランドレーキホテルは總工費五十二萬五千圓で大津市外栖ケ崎の琵琶湖を一望に收め得る形勝の地にあるもので鐵筋コンクリート四階建で總坪數千二百九十七坪近代的ホテルの粹を盡す大ホテルである、又上高地ホテルは既に基礎工事に着手したが完成は九月下旬の豫定で大阪の方は、大阪に相應しい近代的な大ホテルが華々しく外人に呼び掛ける事になる之で横濱のニューグランド、愛知縣の蒲郡ホテルを加へて一流の觀光ホテルが相繼いで新裝を競ふ譯である

エジプト政府の綿糸布關税引上 我財界への影響甚大

〔東京十六日發國通〕エジプト政府の綿糸布關税一割乃至二割引き上げの我財界への影響は左の如くである

生地棉布は七年度は六千萬圓の輸出あり、栖木綿は三百萬圓昨年來爲替低落で我國には、第三位の市場で英國品を壓倒してゐた故日本は最も影響が甚だしい

禪宗大正寺の子安觀音會

市内曙町曹洞宗大正寺では觀音會を組織し會員勸募中の處多數の會員信者を得たので五月十八日午後一時から同寺で莊嚴な發會式法要を修行するが觀音會本尊「子安觀世音菩薩」は安產守護に靈驗あらた例會は毎月十八日午後一時、因に發會式次は

一、十八日午後一時より發會式法要並に會員家門繁榮祈願法要
二、主任の挨拶
三、御詠歌奉納、義太夫、其他
四、子安御音御札、供物等授與

博多ニワカ いよ／＼開演

既報の通り長春座は十七八の兩夜半太郎改め木村談海を中心とする博多二輪加の大一座が開演する談海は數年前一度來演したことがありここでも福岡縣人會が力瘤を入れて後援するので大賑ひ新京でも福岡縣人會が後援し華々しく開演するさいふから春宵一夕の觀賞にふさはしいものとして大盛況を呈するであらう

ラヂオ

十八日（木曜日）東京

奉天四、〇〇レコード 錢行金銀相場商業通信社
新京四、三〇演藝
新京五、〇〇時事解説
新京五、三〇ニュース（滿洲語）
東京六、〇〇ニュース東京中央放送局編輯
新京六、三〇演藝父八講演
新京七、〇〇ニュース（英語）
新京七、一〇ニュース（露西亞語）
新京七、二〇ニュース（朝鮮語）
新京七、三〇ニュース氣象豫報、放送局編輯及プログラム豫告
新京八、〇〇演藝
東京八、三〇時報
東京八、三一ニュース東京中央放送局編輯

ライオン齒磨の滿洲國新製品發賣

ライオン齒磨の品質の優秀なる事は既に定評のある所であるが、同社では今度滿洲國の建國を記念し、特に苦心研究の結果滿洲國の氣候風土に適合し滿洲國人士の嗜好趣味に合致する齒磨を創製發賣した。流石四十年の研究と經驗に據つて苦心創製したものだけあつて、その品質の卓越な點は齒科醫學的に最高基準を示せるもので、殊にその香味、舌觸りの風雅淸新なる眞に近代人の好みを完全に表現し、愛用者をして飽了せずにはおかぬものがある

而もその發賣記念として、獅子牙膏チューブ入り一本又は獅子牙粉罐入一個お求めの方には美術鏡一個宛、獅子牙粉袋入一個お求めの方にはモダン手帳一冊宛無代進呈するさ云ふ大變有利な景品付賣出しをも併せ發表して、愈々沸くが如き人氣を博してゐる、近代人の嗜みとして齒の衞生を重ずる人は、此の最も德用な機會を逸せずお求めになる樣御奬めし度い

尚同社では新製品の普及宣傳の爲め一隊六十名よりなる一大宣傳隊を派遣し、五月十一日安東縣を皮切りとして二ケ月に亘り全滿洲隈なく大宣傳を行ふ由である、滿洲國新製品の發賣と云ひ發賣披露を兼ねたる大宣傳と云ひ、その規模結構の廣大なる流石齒磨界の王者たるライオン齒磨本舖のやる事は偉いものだと思はざるを得ない

戰ひは漸く酣
攻めつ攻められつ（十二）　黒頭巾評

黒に「□」と白「九十五」の一目を抜かれて見ると白は「□一」とでも飛んで置く位なものである。

黒「□二」は少々臆病なやうである。

手强く「□四」と曲つて飽く迄も積極方針に出たら何うだつたらう。

黒から（い）の覗きがあるから白は（ろ）と突張つて妣に受けるより外には仕様もなさゝうである。

そこで黒は「□二」と粘ぐのであるが、白若し（ろ）と受けずに「百二」と出たら、黒は先づ（は）と約へ黒「□」と切つた時に、黒（い）と尖んで右下隅の黒子を棄てゝも大分得のやうである。尤も黒（い）と尖まずに「□七」と頂け越して白「□六」黒（り）白（に）黒（ほ）白（へ）黒（と）となれば餘程結構であるが、白には「□三」と頂ける利もあるし、又「六十七」以下の四子がどんな活躍をしないとも限らぬが、黒は（い）と尖む位で我慢しても割には合ひさうである。

白の應手を待つ

黒に「□三」と粘かれて見ると白はまさか「□八」と約へてこの長蛇の黒を取りに掛かる譯には行かない。反對に「□五」と曲られては白の方が險呑である。で白も自分の缺陷を補強してからでなくては仕事に掛かれないから「□三」と頂けて黒の順譜を窺つたのだ。

黒は格別急ぐ譯ではないから黒「□四」と靜かに綽ねて、白の應手を待つた。白はそこで踵を返して「□一」と約へ、黒「□六」と一ッ突き出し、白「□七」約へたので今度は黒も遣繰ながら「□八」と駄目のやうな處をツて行かねばならぬ段取りとなつたのである。

白ホッと一息

白はこれで兩方のフラ／＼が連絡したので、實はホッと一息吐いた譯だ。白はちと曲つて「六十七」以下の四子が逃げたいのは山々だが、大石への響きが恐ろしいので、潔よく「□九と當十」と粘いだ時に白「□十二」と伸びて來た。黒は「□十二」と取る一手。

黒先鞭を付ける

そこで白は「□十三」と押したのであるが、黒に「□十四」と下られたには閉口頓首であつた。

白はそこ打棄て（ぬ）と右上隅へ打ち込んで見たかつたのだが、黒に「十三」と押されて、黒方隅を挨拶してゐると、今度こそ黒（る）白（を）黒（わ）と酷しく押し付けて黒塀が厚くなるやうな氣がして斷行し兼ねたのだつた。

だが白（ぬ）と隅へ打ち込んだ時、黒「□十三」と約へて來てもそこは手を抜いても滅多な事では取れないのであるから、白は後手で「□十三」と約へるには及ばなかつた。

白（ぬ）と打ち込んだ場合、（黒か）では白「十四」で白澤山である。

又黒「□十四」なら白（よ）で容易には取り切れさうにないし、よしんば取られても外側を締付ける方法もあらうと云ふものである。●「□十四」を黒に先據されたのは白に取つては痛恨事であつた。

圍碁新手合（一局の十二）

三段　石塚行誠
五子　高橋直次

百三　ルノ十三
百四　リノ十六
百五　カノ十
百六　ワノ十一
百七　ヲノ十一
百八　カノ十八
百九　チノ十四
百十　ルノ十五
百十一　ヌノ十三
百十二　リノ十四
百十三　リノ十三
百十四　ロノ五

變幻黑船往來

禁脚色上映及上演　（作）寺島柾史　（畫）布施長春

第二十四回

黑船の難題（10）

その傲然たる典膳の態度に、格之進は二重の怒りにもえ立つた。

『て、典膳、忍城本の典膳！このおれを見忘れたとはいはさぬぞ、おれだ、箕浦だ』

『ほう。箕浦？はて一向に存ぜぬな』

あざ笑ひながら、振り向うともせず、ひやゝかにいつた。

『いや知らぬとはいはさぬ。おのれは、おのれは、立待臺場の脫走役人だ』

典膳は、その一言をきいて、急に立停つた、列を離れて振かへつた。

『こりや、下郎、それは人違ひであらう、それがし、立待臺場などに縁もゆかりもないわ』

『默れ！默れ！典膳、おのれは……』

『あゝこれ〳〵、勤番所の役人衆、かゝる狼藉者は、はやく始末をなさるがよい。フランス軍艦の方々の眼に觸れて見苦しいではござらぬか』

典膳は、やはり顏色ひとつ變へず、いかにも應揚に、大國民風に徒目附たちをたしなめた。

『こりやまてい』

附目附兩名は、かろく威壓され反射的に叫んで、格之進を引立て

『あ、あれは、立待臺場の脫走役人だ。兇狀持の惡旗本だ！』

『……………』

『勤番所の方々、はやく、はやくあ奴を捕へて下されい』

徒目附に兩手をとられ、引立てられながら格之進は、士分の風格を忘れ取亂してわめいた。

が、獸々つ兒のやうにわめいてゐるうちに、通譯官典膳は、さつさとモリエールたちに追つき、やがて赤髯金ピカの交涉委員一行は、ぞろ〳〵と端艇へ乘り移つてしまつた。

『あ、あ奴を取逃しては……』

『靜かになされい。いま事を立つては、かへつて不首尾に終るでござらう』

徒目附の一人は、いきり立つ格之進を、靜かにたしなめた。

『……………』

格之進は、口元をゆがめ、脣を呑んで、苛立だしく砂地を踏みにじつた。

と、そのときである。折よくその場へ驅つけて來たのが、れいの北方探檢家の兩名だつた。

濱邊のただならぬ樣子、かつは格之進のいきり立つてゐるありさまに、それと察してか。韋駄天の如くボートめがけて殺到した。

『おーい、待てい！』

『おーい』

口々にわめきながら、波打際まで追ついたが、すでにそのときボートは哄笑する通譯官や佛頂面してゐるモリエールたちを乘せたまゝ、沖の黑船へ向け、悠々と進んでゐるのだつた。

『おーい、待てい！』

『おーい……』

磯打つ浪に義經袴をぬらし、手を擧げて端艇を引戻さうとするが端艇はいよ〳〵遠ざかりゆくばかりだつた。

『よしッ！追はう。傳馬船を仕立てゝ黑船へ乘込んでいかう』

血氣の左京は叫んだ。

『うむ、詮方ない。われら兩名、いまぞ假面を脫ぐときだ』

武七郎も、思慮分別をすてゝ怪しく血を湧き立たした。

だが、そのとき徒目附兩名を引ずるやうにして、半狂亂の體で波打際までまろび出た格之進は、左京、武七郎兩名の最後の決意をきいて、急に、ある妙案をおもひついてニヤリとした。

『御兩所、よい智惠がござる』

『なに？おゝ箕浦氏か……』

『あの梶倉につないである松井白軒、彼奴を囮に、黑船へ乘込み、典膳を引出すが上分別と存ずるに